東海大学チャレンジセンター

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目4-1-1
Tel : 0463-58-1211（代）
Fax : 0463-50-2472
Mail : challenge@tsc.u-tokai.ac.jp
URL : http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/

2011年度

活動報告書

Tokai University
Student Project Center
Activity Report
2011

東海大学チャレンジセンター

2011年度チャレンジセンター活動報告書の発行に当たって

チャレンジセンター所長
大塚　滋

チャレンジセンターが設置されてから、今月で丸6年が経過します。もはや新しい教育組織とは言えない歴史を持つにいたりました。今年度のセンター活動全体を振り返るこの報告書を発行するに当たり、この認識の下に私なりの自己評価をしたいと思います。

授業を通じた教育面での成果として、まず挙げなければならないのは、キャリア支援センターとの合同FD研究会の開催です。広い意味で社会人基礎力養成を目指す全学共通科目を開講している両センターが、教育目標、教育手法、評価方法などについて、意見交換し相互批判も行える場を持てたことは、本学学生の「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」向上に大いに資するものと考えています。まだ始めたばかりで、その成果をそれぞれの教育で十分に生かすまでには至っていませんが、これから回を重ね、さらに、たとえば総合教育センターなどの参加も得て、より全学化することによって、全学共通科目の一層の充実を図ることが可能と思います。

ジャーナリズム実践教育コースは、受講者数も大いに増加し、次第にその成果も出しつつあります。総合大学における全学共通コースというメリットを生かして、来年度も有為の人材を育成してもらえるものと期待しています。

「自ら学ぶ意欲を引き出す理系教育プログラム」は、チャレンジセンター的教育方法を用いた学部専門科目のモデルとして提案しているものですが、今年度、新たに理学部でも実施されたとはいえ、実施数はまだ十分ではなく、さらに拡大する努力が求められるでしょう。そのためには、汎用性のある評価指標の早急な確立が求められます。

プロジェクト支援を通じた教育面での成果としては、プロジェクトコーディネーター研修を体系化して実施したことと、その研修が学園レベルで認知され、業務別研修に加えられたことがまず挙げられます。教職協働による学生教育を標榜し、多くの職員にコーディネーターとしてその教育に関わってもらおうと考えている当センターにとって、大きな前進と言っていいと思います。

また、今年度初めて、来年度のプロジェクトリーダー、サブリーダーを湘南キャンパスに招集し、当センターの教員が講師を担当した「リーダー研修会」を開催し、彼らにリーダーとしての自覚とスキルを涵養するだけでなく、face to face のコミュニケーションの機会を提供できたことは、東海大学全体をカヴァーする教育組織として、責任の一半を果たせたのではないかと考えております。今回の研修会を振り返り、さらに実効性のあるものを提供していきたいと思います。この研修会を開催することになったきっかけは、私が昨年度行った北海道キャンパス、九州キャンパスの視察でした。それらのキャンパスから見た湘南キャンパスとの間の距離は湘南から見た場合以上に遠かった、という印象を持ちました。それらのキャンパスの学生諸君は同じチャレンジセンターに集っているとは言いにくい状態でした。この心理的距離を少しでも縮め、プロジェクト同士のコミュニケーションと協力関係を生み出すことが当センターの急務だと感じました。今年度は清水キャンパスと高輪キャンパスを視察しましたが、来年度も続けたいと考えています。

プロジェクト審査の方法も若干変更しました。センター付教員にも審査に加わってもらい、審査のさらなる公平化、中立化につとめました。書面審査化したための問題点も若干ありましたが、公平感の向上は成し得たと感じています。

素晴らしい成果を挙げたプロジェクトもいくつかありました。「World Solar Challenge」2連覇の「ライトパワープロジェクト」、体育会の各クラブの協力を得て、400名の小中学生を集め「第4回スポーツ教室Day」を成功させた「スポーツ社会貢献プロジェクト」、「北海道福祉街づくり賞」を受賞した「福祉除雪プロジェクト」、「Green ET Challenge 2011」で初優勝を果たした「先端技術コミュニティACOT」などです。

そして、特に言及しなければならないのは、昨年3月11日に発生した東日本大震災の被災地を支援しようとして立ち上がり、岩手県大船渡市、宮城県石巻市に応急公共施設「どんぐりハウス」を建て、それを拠点として支援活動を行った特別プロジェクト「3.11生活復興支援プロジェクト」です。その活動はさらなる成果を生み、たとえば、宮城県名取市の「どんぐり子ども図書室」の建築にも協力することができました。また、「ライトパワープロジェクト」「Music Art Project」などがこの活動に協力してくれたこと、学生運営スタッフが募金活動を行ってくれたことも高く評価したいと思います。今後も持続的な支援活動を展開することが期待されます。

本年度はこの特別プロジェクトの発足に現われているように特別な年度でした。しかし、その中で多くのプロジェクトが、困難を乗り越え、多くの成果を残してくれたと考えています。ただ、当センターによる支援に足らない部分、問題点がなかったわけではないと思います。どうか、この報告書をお読みいただき、ご批判、ご助言をいただければ幸いに存じます。

2012年3月

INDEX

２０１１年度チャレンジセンター活動報告書の発行に当たって 1
チャレンジセンターとは 3
プロジェクトコーディネーター・アドバイザー 5
2011年度のチャレンジセンターの活動 7
新たな取組み 9
2011年度チャレンジプロジェクト活動報告 10
チャレンジセンター開講科目 32
FD研究会 41
ミニセミナー 43
広告媒体物（ポスター・チラシ・パンフレット） 45
ニュースリリース（湘南キャンパス） 47
メディアー覧 47
2011年度活動一覧 49

チャレンジセンターでは、多様な人々との関わり合いの中から学び、社会に貢献できる人を育てます。

社会情勢の変動に伴い、大学が担うべき役割にも変革が求められています。

これまでの大学は、各分野に細分化された専門知識を身に付けさせる場としてその役割を担ってきましたが、学生が自身の専門性を社会に還元する一員として広い視野で捉えることを可能にする文系理系横断型の教育が、より一層、重要視されています。さらに、これまでは社会にでてから身につけることが多かった人間力を養成する場としても役割を拡大しており、カリキュラムにもチームで課題に取り組むPBL※1型授業などが積極的に導入されています。このような改革が求められる背景には、高校生の半数以上が進学する大学の大衆化、インターネットの発達により、仲間とFace To Faceで語り合う場の減少に伴う学生の個人化、それらを要因とした大学生の質の変化があげられます。

大学が担う人材育成の先駆けとして開設された本センターのこれまでの歩みは、就職難などで未来のキャリアデザインを描くことが困難な学生たちにとって、本当に必要な学びとは何かを探究する軌跡であったと言えるでしょう。

本センターは、学部学科を横断する多様な学生たちが集い、社会貢献性の高いプロジェクトの支援を推進する教育機関として発足6年目を迎えました。2011年度は7キャンパス（旭川はユニークプロジェクトのみ）より37プロジェクト（チャレンジプロジェクト※2 18件、特別プロジェクト※3 1件、ユニークプロジェクト※4 17件）が参加し、「集い力・挑み力・成し遂げ力を身につけた社会に必要とされる人材を育成する」という本センター教育理念のもと、約1500人の学生がプロジェクト活動を展開しました。

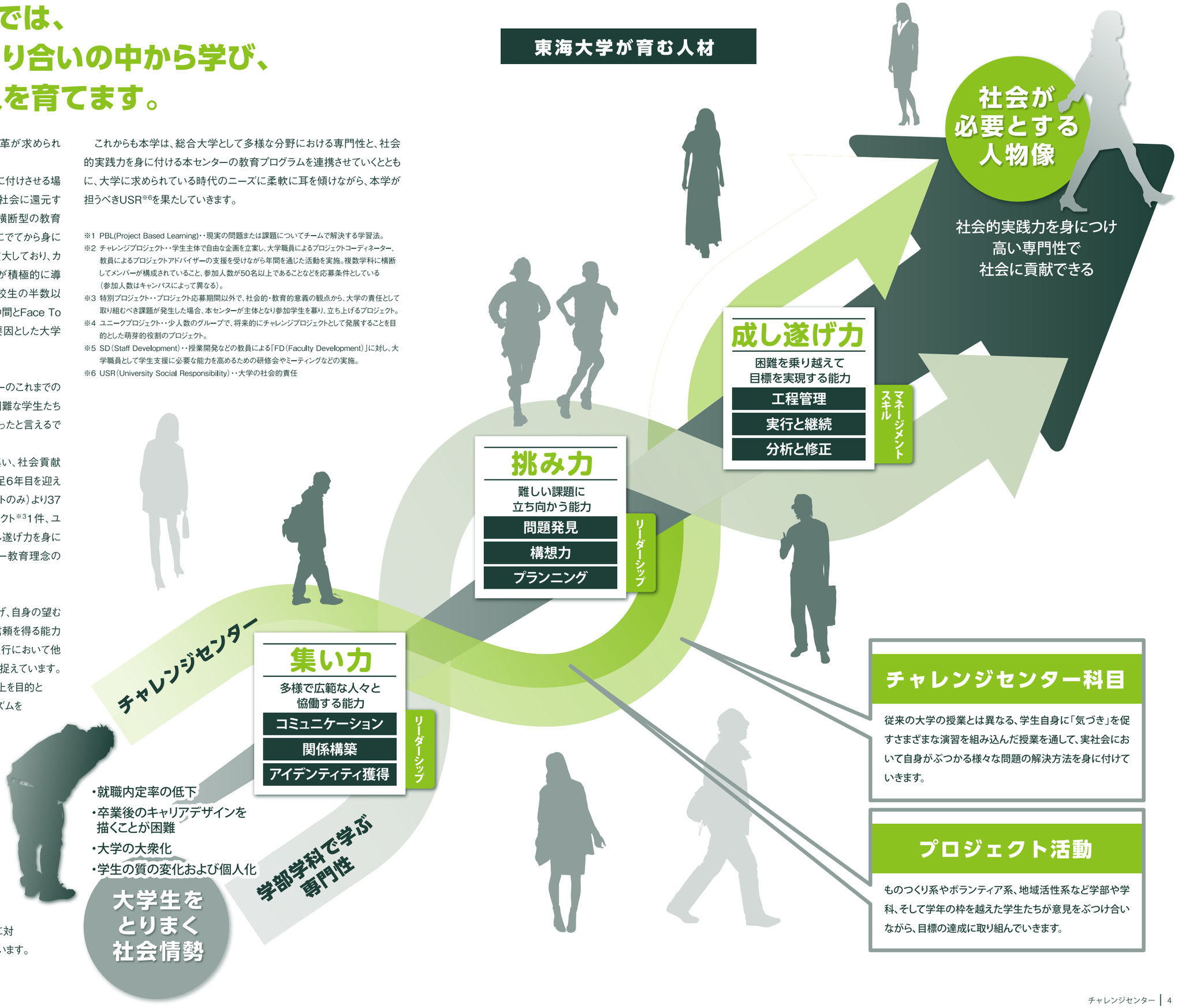
高度かつ複雑になった現代社会において、目標を成し遂げ、自身の望む未来を獲得するために最も必要なことの一つは、他者から信頼を得る能力であるといえるでしょう。そこで、本センターではプロジェクト遂行において他者と培う関係構築のプロセスこそ、重視すべき学びであると捉えています。さらに、その学びへのアプローチとなる多角的なスキルの向上を目的とした科目も開講しており、2011年度は4526人（ジャーナリズムを含む）の学生が受講しました。

本センターでは、このチャレンジセンター開講科目におけるコミュニケーションやマネージメントを学ぶ演習と、プロジェクト活動における目標を達成するための多様な体験が、学部学科の専門的な学びと連携し合い、「集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける教育プログラムを実施しています。

その他にも、本学では大学職員も、教育を担う一員として、コーディネーターという立場でプロジェクトに関わり、教員とともに学生支援のための協力体制を構築してきました。また、プロジェクト教育の質向上のために、コーディネーターに対し、オリジナルの研修を実施し、特徴あるSD※5活動を続けています。

これからも本学は、総合大学として多様な分野における専門性と、社会的実践力を身に付ける本センターの教育プログラムを連携させていくとともに、大学に求められている時代のニーズに柔軟に耳を傾けながら、本学が担うべきUSR※6を果たしていきます。

※1 PBL(Project Based Learning)・・現実の問題または課題についてチームで解決する学習法。
※2 チャレンジプロジェクト・・学生主体で自由な企画を立案し、大学職員によるプロジェクトコーディネーター、教員によるプロジェクトアドバイザーの支援を受けながら年間を通じた活動を実施。複数学科に横断してメンバーが構成されていること、参加人数が50名以上であることなどを応募条件としている（参加人数はキャンパスによって異なる）。
※3 特別プロジェクト・・プロジェクト応募期間以外で、社会的・教育的意義の観点から、大学の責任として取り組むべき課題が発生した場合、本センターが主体となり参加学生を募り、立ち上げるプロジェクト。
※4 ユニークプロジェクト・・少人数のグループで、将来的にチャレンジプロジェクトとして発展することを目的とした萌芽的役割のプロジェクト。
※5 SD（Staff Development）・・授業開発などの教員による「FD（Faculty Development）」に対し、大学職員として学生支援に必要な能力を高めるための研修会やミーティングなどの実施。
※6 USR（University Social Responsibility）・・大学の社会的責任



チャレンジセンター科目

従来の大学の授業とは異なる、学生自身に「気づき」を促すさまざまな演習を組み込んだ授業を通して、実社会において自身がぶつかる様々な問題の解決方法を身に付けていきます。

プロジェクト活動

ものつくり系やボランティア系、地域活性系など学部や学科、そして学年の枠を越えた学生たちが意見をぶつけ合いながら、目標の達成に取り組んでいきます。

プロジェクトコーディネーター・アドバイザー

本学は教員と職員による協働体制で教育支援を推進しています。その一環として、チャレンジセンターでは、プロジェクト活動の質を高め、より高度な目標を成し遂げられるよう各プロジェクトには本学教職員から選抜されたコーディネーターとアドバイザーを配置しています。チャレンジプロジェクトにおいては、コーディネーターとアドバイザーが必ず配置されますが、ユニークプロジェクトでは学生からの支援要請に基づき本センターの審議の上、配置を決定します。
さらに、本センターではプロジェクト支援に活用できるスキル向上を主な目的とした研修会や意見交換会などをコーディネーターとアドバイザーを対象に実施しています。

プロジェクトコーディネーター

プロジェクトコーディネーターは、プロジェクト全体の進行状況を把握し、活動全般の相談役や提出書類の作成指導を担います。また、予算管理・工程管理に関する指導や、活動が困難な状況の時に円滑に進むよう学生にモチベーションを与える「縁の下の力持ち」的な役割を担っています。なお、コーディネーターは、チャレンジセンターが実施する複数の研修会の受講が義務づけられており、これは本学園人事制度において「業務別研修」と位置づけられた本センターオリジナルのSD活動です。

【2011年度 担当者一覧】

担当プロジェクト名	氏名	所属
チャレンジプロジェクト		
3.11生活復興支援プロジェクト（特別プロジェクト）	深谷　浩憲	チャレンジセンター推進室
ライトパワープロジェクト	佐藤　多嘉雄	チャレンジセンター推進室
東海大学学生ロケットプロジェクト	広瀬　光明	情報システム開発課
Tokai Formula Club	岡部　成弥	校友課
サイエンスコミュニケーター	五十嵐　義和	チャレンジセンター推進室
スポーツ社会貢献プロジェクト	松永　達也	スポーツ課
Beijo Me Liga	武藤　宏之	国際連携課
キャンパスストリートプロジェクト	中西　健人	チャレンジセンター推進室
病院ボランティアプロジェクト	高橋　操	チャレンジセンター推進室
環境キャラバン隊	宮川　照男	チャレンジセンター推進室
Music Art Project	佐藤　友信	入学広報課
Tokai International Communication Club	田中　久博	国際教育課
Takanawa共育プロジェクト	植野　一朗	高輪キャリア支援課
三保活性化プロジェクト	舟尾　隆	清水教学課
	鈴木　悟	清水教学課

担当プロジェクト名	氏名	所属
DESIGN and CREATE	新村　敏博	熊本教学課
	石原　弘慎	熊本事務課
先端技術コミュニティACOT	下山　佳祐	九州入学広報課
	福間　恵	熊本教学課
阿蘇援農コミュニティープロジェクト	高橋　誠二	阿蘇教学課
	工藤　哲也	阿蘇事務課
あにまるれすきゅープロジェクト	伊藤　貴人	阿蘇教学課
	神鷹　孝至	農学教育実習場
福祉除雪プロジェクト	池田　隆之	北海道研究支援課
	柳沢　篤寛	北海道研究支援課
	三上　早苗	北海道研究支援課
ユニークプロジェクト		
障害者自立支援プロジェクト	後藤　貴志	学長室企画課
Childワクチンバンク	荒木　幸弘	図書課
アイスパンテオンプロジェクト2012	松嶋　祐介	旭川事務室

運営スタッフ	近藤　竜二	チャレンジセンター推進室

プロジェクトアドバイザー

プロジェクトアドバイザーは、専門的知識または技能を持った教職員が担当し、各プロジェクトに1名以上配置されます。主な役割として、プロジェクト活動に対して専門的な立場から指導・助言を行います。プロジェクトの活動を、より質が高く大きなチャレンジとするためには、プロジェクトアドバイザーの豊富な知識と経験に裏付けられたアドバイスが必要になります。

【2011年度 担当者一覧】

担当プロジェクト名	氏名	所属
チャレンジプロジェクト		
3.11生活復興支援プロジェクト（特別プロジェクト）	杉本　洋文	工学部建築学科
	木村　英樹	工学部電気電子工学科
	大塚　滋	法学部法律学科
	梶井　龍太郎	教養学部芸術学科
	五嶋　正治	文学部広報メディア学科
	浅川　毅	情報理工学部コンピュータ応用工学科
ライトパワープロジェクト	平岡　克己	工学部航空宇宙学科
	木村　英樹	工学部電気電子工学科
	福田　紘大	工学部航空宇宙学科
東海大学学生ロケットプロジェクト	那賀川　一郎	工学部航空宇宙学科
	中篠　恭一	工学部航空宇宙学科
	田中　真	情報教育センター
Tokai Formula Club	森下　達哉	工学部動力機械工学科
	長谷川　真也	工学部動力機械工学科
	松木　誠一郎	教育支援センター技術支援課
	佐野　秀実	教育支援センター技術支援課
サイエンスコミュニケーター	岡田　工	チャレンジセンター
	園田　由紀子	チャレンジセンター
	広川　美津雄	教育研究所
	山本　義郎	理学部数学科
	西嶋　恭司	理学部物理学科
スポーツ社会貢献プロジェクト	松浪　稔	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科
	伊藤　栄治	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科
Beijo Me Liga	小貫　大輔	教養学部国際学科

担当プロジェクト名	氏名	所属
キャンパスストリートプロジェクト	杉本　洋文	工学部建築学科
	岡田　章子	文学部広報メディア学科
病院ボランティアプロジェクト	児玉　千代子	健康科学部看護学科
環境キャラバン隊	藤田　成吉	教養学部人間環境学科
	滝川　洋二	教育開発研究所
Music Art Project	梶井　龍太郎	教養学部芸術学科
	二宮　洋	教養学部芸術学科
	田丸　智也	高輪教養教育センター
Tokai International Communication Club	森山　美紀子	外国語教育センター
	田口　香奈恵	国際教育センター
Takanawa共育プロジェクト	福崎　稔	高輪教養教育センター
三保活性化プロジェクト	中山　隆雄	清水教養教育センター
DESIGN and CREATE	村上　祐治	産業工学部建築学科
先端技術コミュニティ ACOT	中嶋　卓雄	産業工学部電子知能システム工学科
	佐松　崇史	産業工学部機械システム工学科
	井出口　健	産業工学部電子知能システム工学科
阿蘇援農コミュニティープロジェクト	田中　孝幸	農学部応用植物科学科
あにまるれすきゅープロジェクト	森友　靖生	農学部応用動物科学科
福祉除雪プロジェクト	馬渕　悟	国際文化学部地域創造学科
ユニークプロジェクト		
障害者自立支援プロジェクト	大塚　滋	法学部法律学科
アイスパンテオンプロジェクト2012	粉川　牧	芸術工学部建築・環境デザイン学科
	渡辺　宏二	芸術工学部建築・環境デザイン学科
肥後のたまもの	儀間　敏彦	総合経営学部マネジメント学科
	山崎　松男	総合経営学部マネジメント学科

【コーディネーター・アドバイザー研修一覧】

開 催	研修名	テーマ・内容	担 当	対 象
4月20日	コーディネーター事務研修	①大学を取り巻く社会状況とは? ②コーディネーターの勤務管理について ③「プロジェクト運営マニュアル」について	①冨田鉄二（湘南キャリア支援課長補佐） 高橋操（チャレンジセンター推進室） ②五十嵐義和（チャレンジセンター推進室長補佐） ③近藤竜二（チャレンジセンター推進室）	コーディネーター《6キャンパス・25名》
5月27日 28日	コーディネーター能力研修	●プロジェクトの広報活動を通じた『学び』について 【1日目】 ①大学広報を通じた社会的責任について ②社会貢献とパブリシティ ③本センターの広報について ④プロジェクト活動における広報とは? （ワールドカフェ方式によるグループディスカッション） 【2日目】 ①広報について （活動例にサイエンスコミュニケーターを挙げて） ②研修全体のまとめ、グループごとの発表	【1日目】 ①荒井元明（広報部広報課長） ②井岡祐介（〈株〉共同PR第二業務局課長） ③高橋操（チャレンジセンター推進室） ④堀本麻由子（チャレンジセンター講師） 【2日目】 ①園田由紀子（チャレンジセンター講師） ②堀本麻由子（チャレンジセンター講師）	コーディネーター アドバイザー《7キャンパス・24名》
6月　2日	アドバイザーミーティング	●教育プログラムにおけるアドバイザーとの連携について ①2011年度チャレンジセンター方針について ②チャレンジセンター科目について ③アドバイザーが担う外部折衝の事例報告 （5年にわたるライトパワープロジェクトの支援を通じて）	①大塚滋（チャレンジセンター所長） ②崔一英（チャレンジセンター次長） ③木村英樹（チャレンジセンター次長）	アドバイザー チャレンジセンター付教員《6キャンパス・17名》
10月17日	コーディネーター中間研修	●プロジェクトにおける学生支援のあり方 ～トラブルを起こしやすい学生の特性と対応の仕方について～ ①プロジェクトにおける学生支援（コーチング）のあり方の確認 ②問題を抱える学生の特性と支援の方法について	①園田由紀子（チャレンジセンター講師） ②堀本麻由子（チャレンジセンター講師）	コーディネーター《8キャンパス・23名》
2月29日	コーディネーター・アドバイザー意見交換会	●今年度のプロジェクト支援の課題共有と プロジェクト学生が目指すべき『成長』について ①Takanawa共育プロジェクトによる事例紹介 ②全体による意見交換	①植野一朗（コーディネーター、高輪キャリア支援課長） 福崎稔（アドバイザー、高輪教養教育センター教授） ②大塚滋（チャレンジセンター所長）	コーディネーター アドバイザー 一般教職員《7キャンパス・41名》

●‥各会のテーマ　《　》‥TV会議システム接続キャンパス‥参加人数

2011年度のチャレンジセンターの活動

4/7〜15 学生運営スタッフが募金活動を実施

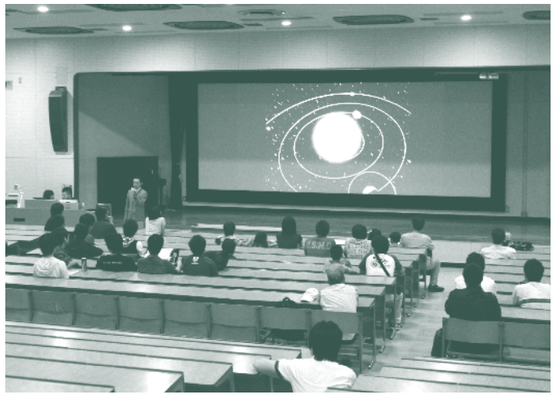
学生運営スタッフの有志が、東日本大震災の被災者を支援しようと、湘南キャンパスで募金活動を行いました。この活動は3月11日の震災発生直後から、学生運営スタッフが大震災に対してできることは何かを考えて計画したものです。
募金活動のリーダーを務めた山田裕樹さんは「募金に協力してくれた学生からは“こういった活動を待っていた”という声もありました。一人ひとりの力は小さくても、皆で取り組めば大きな力になります。より多くの人の思いやり、優しさを形にしたい」と力強く語っていました。この活動で集まった57,741円の支援金は、日本赤十字社に寄付されました。

4/20 岩手県大船渡市にランドセルを寄贈

東日本大震災で被災された子どもたちに役立ててもらおうと、岩手県大船渡市と姉妹都市である神奈川県相模原市を通じてランドセル20個を贈り、そのうち10個が大船渡市より越喜来（おきらい）小学校の児童のもとへ届けられました。これは、本センターの特別プロジェクトとして発足した「3.11生活復興支援プロジェクト」が、大船渡市三陸町越喜来泊地区からの要請を受けて同地区内に応急公民館の建設を計画、5月上旬の完成を目指して活動を開始していることなどが縁となって実現したものです。なお、ランドセルは2008年度まで活動を展開していた「日本縦断キャラバン隊」が募金活動を行って用意していたものを活用しました。

5/21 「科学技術チャレンジフェア2011」を開催

この催しは、文部科学省が制定する第52回「科学技術週間」の一環として行ったもので、今年で4回目を迎えます。
当日は、コンピュータシミュレーションやネットワークを活用して天文学をはじめとする最新の科学を紹介する科学ライブショー「ユニバース」や、サイエンスコミュニケーターが液状化現象についての解説を行ったほか、東海大学学生ロケットプロジェクト、Tokai Formula Club、ライトパワープロジェクトの4つのプロジェクトによる科学講座、ライトパワープロジェクトアドバイザー福田 紘大講師による講演、「流れと音について」を実施。小学生を含めた近隣の市民や学生ら約70名が参加しました。



10/15 「2011年度プロジェクト中間報告会」を開催

各チャレンジプロジェクトの代表学生が地域の方々や学生、教職員らに、今年4月から10月までの半年間に全国各地で展開した活動実績やその成果を報告する催しです。当日は7つのキャンパス（札幌、高輪、湘南、伊勢原、清水、熊本、阿蘇）をテレビ会議システムで結び、湘南キャンパスの会場には約300名が集まりました。本センターの大塚滋所長による激励に続き、本センターの教育目標である「集い力」・「挑み力」・「成し遂げ力」を踏まえて、19のプロジェクトの代表学生が上半期における活動内容や反省点、今後の活動予定などを発表。また、発表後にはさまざまな質問が出され、活発な意見交換が行われました。

2012年

2/4 「2011年度プロジェクト最終報告会」を開催

湘南をはじめとした9つのキャンパスをテレビ会議システムで結んで行われ、全国で合計409名の学生が参加。今年度に採択された6キャンパス19件のプロジェクトが、1年間の活動成果や課題となった点、今後の展望などを発表しました。
プレゼンテーションの審査員として、東海大学連合後援会の田畑日出男会長や東海大学同窓会の中村宏会長、企業から石井祐吾氏（株式会社アビスト東京支店営業第一課課長※本学工学部卒業生）、滝沢裕喜氏（株式会社アクセスヒューマネクストキャリアセンター支援グループ第一グループシニアリーダー）、天田有美氏（株式会社リクルートHRカンパニー就職支援コミュニケーショングループ首都圏チームチームリーダー）が参加。報告会終了後に、学生のプレゼンテーションに対しての講評をいただきました。

■「グッドプレゼンテーション」賞 受賞プロジェクト
▽東海大学学生ロケットプロジェクト（湘南キャンパス）　▽サイエンスコミュニケーター（湘南キャンパス）　▽あにまるれすきゅープロジェクト（阿蘇キャンパス）

2/4 「第8回チャレンジセンターセミナー」を開催

学生に社会で必要な心構えを考えてもらうことを目的とした催しとして、大磯町長の中﨑久雄氏（元本学医学部付属大磯病院長、元大船中央病院長）を講師に招き、「人生に信念を持て!―今こそ養え、『集い力』『挑み力』『成し遂げ力』―」をテーマに講演をいただきました。当日は湘南をはじめ9つのキャンパスをテレビ会議システムで結び、全国で109名の学生らが参加しました。
中﨑氏は、本学医学部付属大磯病院で病院長を務め、現職にいたるまでの社会経験から、目標達成のための努力の大切さについて力説。「学生時代の小さな積み重ねが、社会に出てからの強みになります。学生だからこそできるイベントやプロジェクトの経験を通じて、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を磨き、確たる信念を持って社会に貢献できる人になってほしい」と語りました。

2/18 「電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会（東日本）」を開催

本センターと日本太陽エネルギー学会との共催で行われ、、学会に所属する研究者のほか、約270名が参加。ライトパワープロジェクトの学生メンバーが、会場運営を担当したほか、World Solar Challenge（WSC）で本プロジェクトのテクニカルディレクターを務めたヤマハ発動機㈱の池上敦哉さんと、チーム監督を務めた木村英樹教授が、「2011年型ソーラーカー『Tokai Callenger』の設計」をテーマにそれぞれ講演を行いました。また、ライトパワープロジェクトが、WSCにおいて、有力チームを抑えて大会2連覇を飾ったことが高く評価され、「日本太陽エネルギー学会特別賞」を受賞。賞状と記念の盾が授与されました。

チャレンジセンター所長賞

プロジェクト活動を通じて社会に貢献できる「集い力」・「挑み力」・「成し遂げ力」を身に付けた学生に対し、「チャレンジセンター所長賞」を授与しています。2011年度は4キャンパス12名の卒業生が選ばれました。

【受賞要件】
①チャレンジプロジェクトに加入して2年以上活動した者　②プロジェクトリーダーを務めた経験がある者　③プロジェクト修了認定を2回以上受けている者
④卒業後の進路が定まっている者

キャンパス名	プロジェクト名	氏　名	リーダー経験年度
湘南キャンパス	ライトパワープロジェクト	馬場　勇一	2008 年度
		伊藤　　樹	2009・2010 年度
	東海大学学生ロケットプロジェクト	丸山　信也	2010 年度
		川井　寛量	2011 年度
	Tokai Formula Club	都築　義幸	2010 年度
	スポーツ社会貢献プロジェクト	遠藤　洋祐	2010 年度
	キャンパスストリートプロジェクト	下田　奈祐	2009 年度
	病院ボランティアプロジェクト	高椋　　遼	2009 年度
	Music Art Project	中島　麻耶	2010 年度
熊本キャンパス	DESIGN and CREATE	角田　　翔	2011 年度
阿蘇キャンパス	阿蘇援農コミュニティープロジェクト	古賀　　郁	2009・2010 年度
札幌キャンパス	福祉除雪プロジェクト	三島　龍之介	2011 年度

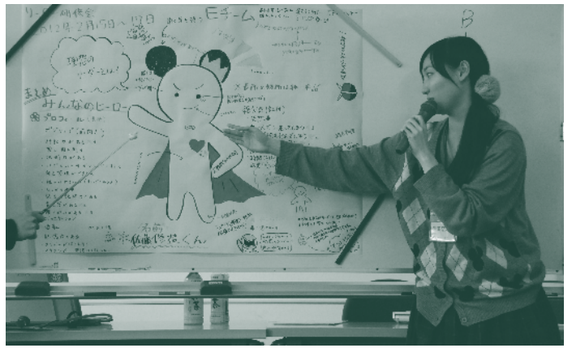
新たな取組みについて

プロジェクトリーダー研修会

2月15日から17日に湘南キャンパスで「プロジェクトリーダー研修会」を初開催しました。これは2012年度採択プロジェクトのリーダー、サブリーダー等の幹部を対象としたもので、キャンパスをこえた学生同士の交流やプロジェクトリーダーの育成を通じて、各プロジェクトのノウハウや課題を共有化し、活動の活性化を図るのが目的です。2泊3日で行われた今回の研修には、札幌・高輪・湘南・熊本・阿蘇の5つのキャンパスから16プロジェクト33名の学生が参加しました。研修ではチャレンジセンターの園田由紀子講師と堀本麻由子講師が講義を担当し、さまざまな観点からリーダーシップを学びました。参加した学生は「他のキャンパスの人たちの考えを聞けたことは、新鮮で刺激的だった」「湘南など他のプロジェクトでも問題があるのを知り、悩んでいるのは自分だけではないと安心しました。自分の思いこみを捨てる大切さがわかり、今後のコミュニケーションに役立てたい」と感想を寄せています。大塚滋所長は、「地理的に離れているとチャレンジセンターの一員だという実感がわきにくい。寝食を共にし、互いの経験や悩みを共有することで、地理的な距離を精神的なつながりで縮めたいと思い、この研修を企画しました」と語っています。

研修プログラム

1日目
●リーダーシップとは何かを考える　（堀本）
・アイスブレーク（自己紹介）※グループごとにじっくり時間をかけて行う
・【講義】EQリーダーシップについて
・自分自身のリーダーとしての課題について考えをまとめる
2日目
●リーダーに求められる柔軟な発想と説明力を高めよう!
～多角的視点と論理的思考を使って、柔軟な発想につなげよう～　（園田）
・思い込みを避ける多角的視点の作り方
・論理的・客観的思考力を高めよう～説明力UP演習～
・柔軟な発想でブレーンストーミングをしよう
●アクションラーニング(堀本)
・課題発見演習①
・課題発見演習②
3日目
●チームマネジメントにおけるリーダーの在り方（園田、堀本）
・2日間のふり返り
・【講義】チームマネジメントを理解する
・成果をあげるための準備
・チーム目標の設定
・【演習】プロジェクトチームの目標について考えてみよう
・ワールドカフェで考えてみよう
・グループ発表
・3日間のふり返り
・修了式（修了証授与）



3.11生活復興支援プロジェクト、書籍を刊行

2011年3月11日に発生した東日本大震災。
その復興を支援しようと、チャレンジセンターに特別プロジェクトとして「3・11生活復興支援プロジェクト」が発足。震災からちょうど1年が経つ2012年3月11日に、支援に取り組む学生たちの活動を紹介する書籍『被災地と共に歩む　3.11生活復興支援プロジェクト』（1,470円税込みB5版・96ページ）が本センター編集・東海教育研究所発行により刊行しました。
「自分たちが今、できることを――」という思いを胸に、被災地の人々とふれあい、絆を深めた1年間の活動を振り返るとともに、大学が果たす役割、そして「持続可能な復興支援」とは何かを考える内容となっています。

【主な内容】
・3.11生活復興支援プロジェクトの軌跡
・プロジェクト活動の未来を語る
・大学の知を復興に生かす

2011年度 チャレンジプロジェクト活動報告

3.11生活復興支援プロジェクト［特別プロジェクト］ 11
ライトパワープロジェクト 15
東海大学学生ロケットプロジェクト（TSRP） 19
Tokai Formula Club 20
サイエンスコミュニケーター 21
スポーツ社会貢献プロジェクト 22
Beijo Me Liga 23
キャンパスストリートプロジェクト(C.A.P.) 24
病院ボランティアプロジェクト 25
環境キャラバン隊 25
Music Art Project（MAP） 26
Tokai International Communication Club (TICC) 26
Takanawa共育プロジェクト 27
三保活性化プロジェクト 27
Design and Create 28
先端技術コミュニティ ACOT 28
阿蘇援農コミュニティープロジェクト 29
あにまるれすきゅープロジェクト 29
福祉除雪プロジェクト 30

※参加人数は2011年7月現在のものです。

3.11生活復興支援プロジェクト

特別プロジェクト　湘南キャンパス

<継続可能な復興支援のあり方を学ぶ>

http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/3.11lcp/

「被災地の環境を元に戻す」という活動に止まらず、新たな発想で生活環境を考え、その活動を通じて「持続可能な開発のための復興支援とは何か」を学んでいくことを目的として活動に取り組みました。

プロジェクトリーダー	下田奈祐	工学部	建築学科	4年
サブリーダー	渡邉光太郎	工学部	建築学科	4年
	柏原有輝	文学部	広報メディア学科	3年
	佐藤由紀	理学部	化学科	1年
広報リーダー	山内昇	工学部	建築学科	4年
会計責任者	中澤亨	工学部	建築学科	4年

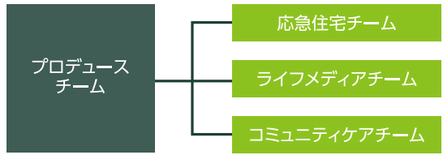
参加人数　44人

2011年3月11日、東北地方の太平洋側を中心に、かつて経験のない地震災害が発生しました。当初は人命救助から被災者の生命維持活動が中心に行われていましたが、その後は生活再建のための、市民ボランティアによる様々な支援活動が必要とされました。

東海大学では、実際の活動に際し、学内外の多様なヒューマンネットワークを有する本学だからこそできるUSR（大学の社会的責任）として震災復興に取り組むべきであるとの結論に至り、様々な問題解決に向けて実践活動して行くために、特別プロジェクトとして「3.11生活復興支援プロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトでは総合大学ならではの多様な支援を行うため応急住宅チーム、ライフメディアチーム、コミュニティケアチームの3チームによる支援を実践。

「応急住宅チーム」は国産間伐材を用いた応急仮設建築「どんぐりハウス」を開発し、津波で流失した公民館の代替施設として提供しました。また「ライフメディアチーム」は被災地の子どもたちと一緒にTV番組を制作し、「コミュニティケアチーム」は募金活動および被災地のニーズに基づいたイベントを行いました。



応急住宅チーム
応急仮設住宅「どんぐりハウス」の開発と建築

ライフメディアチーム
コミュニティ・メディアの活動「夏休みこどもテレビ局」を実施。子どもたちが企画・取材・編集をし、テレビ番組を制作する

コミュニティケアチーム
被災地の多様なニーズに基づいた環境整備やワークショップを実施

5/7 大船渡市三陸町に応急公民館を建設、完成式を実施

岩手県大船渡市三陸町越喜来泊地区

今回の応急公民館建設は、同地区からの要請を受けて行ったものです。同地区では、津波によって公民館が流出し、高台にある旧牛舎を地域の災害対策本部としていましたが、建物内に住民が入るスペースがなく、自治体からのお知らせなども外壁に掲示せざるを得ない状況でした。本プロジェクトでは、4月上旬に現地視察をするなどの活動を開始。あわせて仮設住宅の資材として多く用いられる合板の生産工場が被災し、合板の入手が困難な状況であることを受け、角材を組み合わせることで学生でも建設可能な、「ウッドブロックシステム」という工法による応急建築物を開発しました。学生たちは4月初旬からヒノキの間伐材の加工作業を実施。29日から現地での作業を開始しました。建設現場では、本学同窓会岩手支部の協力や、地元住民の方々も加わり、連日作業に臨みました。5月7日には、地域の皆さんとともに完成式を開催し、コミュニティーの新しい拠点の完成を祝いました。

この応急仮設モデルは、復興への願いを込め、山火事などによって森林が喪失してしまっても芽を出し、森林を再生させる力を持つ「どんぐり」にちなみ、「どんぐりハウス」と名付けられました。

5/20〜22 「ロハスデザイン大賞2011新宿御苑展」で応急仮設住宅を展示

■ 新宿御苑（東京都新宿区）

「ロハスデザイン大賞」（主催：一般社団法人ロハスクラブ）は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っているヒト・モノ・コトの3部門を表彰するもので、「新宿御苑展」はその最終エントリー作品を展示し、それぞれの部門の大賞を決定する催しです。会場には87点のエントリー作品とともに、企業や団体が活動を紹介するブースも出展されました。本プロジェクトは大船渡市に建設した応急公民館と同型の応急仮設住宅「どんぐりハウス」を会場内に建設。堅牢でありながら簡便に建てられる点や、木のぬくもりが安らぎを与える点、震災を受けた東北地方の豊富な森林資源を活用することで、復興・再生・創造という過程において重要な役割を果たせる点などをアピールしました。会期中は約1800名が「どんぐりハウス」を訪れ、本プロジェクトの学生メンバーが対応。参加したメンバーは、「3年間の学生生活で学んだ専門知識を使って、被災地の人に役立ててもらえる建物を作ることができてうれしい」「自分自身が成長しただけでなく、将来に向けての視野も広がりました」などと話していました。

6/5 「どんぐりハウス」が「ロハスデザイン大賞2011」コト部門で大賞 受賞

第6回となる今回は、「エコネイティブなライフスタイルへ」を開催テーマとして実施され、168点がエントリー。最終エントリーの段階で87点まで絞られました。最終審査は、「新宿御苑展」における来場者投票と、インターネットによるロハスクラブ個人メンバーによる投票を合算した総票数（58,942票）によって行われ、資源循環型応急建築物「どんぐりハウス」がコト部門で大賞を受賞しました。

「どんぐりハウス」は恒久建築物としても転用することが可能で、仮設地から本設地などへ何度でも再築できるのが特徴です。また、屋根には電力供給がひっ迫している被災地への対策としてソーラーパネルを設置し、発電した電気を鉛蓄電池に充電することで夜間にLED照明が使えるようにするなど、資源循環型社会に対応する設計がなされています。

表彰式は6月6日、銀座ソトコトロハス館で開催された大賞発表シンポジウムで行われ、一般社団法人ロハスクラブの指出一正さんと環境省地球環境局地球温暖化対策課の植田明浩さんから、表彰状と盾が進呈されました。

6/24 石巻市の仮設住宅隣接地に集会所を建設

■ 宮城県石巻市北上町十三浜・相川運動公園横

十三浜相川、小指地区では136世帯中95世帯が被災し、行政により相川運動公園内に仮設住宅が41戸建設されました。しかし、同敷地内には集会所などのコミュニティスペースが不足しており、地域住民の情報共有や各種協議などに支障をきたしていました。こうした状態を解消し、復興のための取り組みを円滑化することを目的として、同地区からの要請を受け、大船渡市に次ぎ2棟目の応急建築物「どんぐりハウス」を建設しました。

建設現場では、工学部建築学科や電気電子工学科の学生8名が奮闘。活動に協賛いただいた企業からの協力や、地元住民の方々も作業に加わるなど連日作業に臨み、6月24日には建設に携わった学生や地域住民の方々と完成式を行いました。

参加メンバーは「初めて被災地に入り、テレビや写真などでは分からない現状を見ることで、“何とかしなくては”と決意を新たにしました。力仕事も多く大変なこともありましたが、現地の皆さんがとても明るく接してくれたので、充実した活動になりました」と話していました。

8/4〜10 「夏休みこどもテレビ局」プロジェクトを実施

■ 岩手県大船渡市三陸町

東日本大震災による津波で大きな被害を受けた地域で生活する子どもたちの目線で映像メッセージを発信してもらおうと、ライフメディアチームの活動の第一弾として実施しました。

応急公民館「どんぐりハウス」を拠点として仮設スタジオを設置し、現地の小学3年次生から中学2年次生までの子ども10名と一緒に、「大船渡いいとこ巡り」「お父さんとお母さんにインタビューしました」「記憶〜未来へ〜」の3テーマで撮影を行い、38分の番組を完成。10日に実施した2度の上映会には学生や子どもたちのほか、子どもたちの家族や地域住民、海外からボランティアに来ている方々など総勢60名を超える来場があり、中には目に涙を浮かべながら映像に見入る姿もありました。

チームリーダーの柏原有輝さんは、「広報メディア学科で番組制作などを行ってきた経験を生かして、被災地支援をできればと考えて現地入りしました。短期間での制作に苦労もありましたが、最初は硬い表情をしていた子どもたちが最後は笑顔で楽しんでくれてよかったです」と話していました。

9/1〜4 「つながる支援」をコンセプトに大船渡市で交流活動を展開

■ 岩手県大船渡市三陸町

コミュニティケアチームが、「人々が集うことで人と人とが“つながる”」をコンセプトに、地元の小学生や住民らとの交流を柱とした活動を展開しました。今回の活動には文学部、理学部、工学部の学生9名が参加。9月1日に現地入りし、翌2日に大船渡市立甫嶺小学校を訪問しました。

同校には現在、東日本大震災によって校舎が使えなくなった越喜来小学校と崎浜小学校が間借りしており、合同授業が行われています。学生たちは「図書室の本を整理するための本棚が不足している」という小学校からの要望に応え、本棚とマガジンラックを制作。その後、小学1年生と2年生の児童合計31名と“ちぎり絵づくり”のワークショップを通じて交流を深めました。活動2日目は、屋外掲示板と花壇を、ほぼ1日使って完成させました。

参加した学生たちは、「最初は小学生や地元の方々とどのように接していいのか戸惑いもありましたが、一緒にワークショップや食事をする中で自然と話すことができました」「コミュニティケアチームだからこそできることは何かを考え続け、今後も活動を発展させていきたい」などと話していました。

11/3 「3.11生活復興支援プロジェクトシンポジウム ー東日本大震災からの復興と大学の役割」を開催

■ 湘南キャンパス・コムスクエア

被災地における現状の課題、大学が果たす役割と今後の展望などについて考えることを目的に開催され、卒業生や地域住民など約100名が来場しました。当日は大船渡市議会議員の平田ミイ子氏、石巻市の(有)ササキ設計代表取締役の佐々木文彦氏をパネリストとして招き、被災地の「今」を紹介していただくとともに、学生リーダーの下田奈祐さんとライフメディアチームリーダーの柏原有輝さんが活動を報告。パネルディスカッションでは、「卒業後も、プロジェクト活動を通じて生まれた絆を大切にして活動を継続していただきたい」(平田氏・佐々木氏)、「被災地のために役立ちたいという気持ちをもつ学生を一人でも多く仲間にして、プロジェクト活動を継続、発展させていきたい」(下田さん)などの意見が出されました。

11/28 「2011年アメリカ建築家協会デザイン大賞特別賞」を受賞

日本各地の大学より38作品の応募が寄せられた中から、応急建築物「どんぐりハウス」の活動が「2011年アメリカ建築家協会デザイン大賞特別賞(Special Aspirational Award for Community Building)」(アメリカ建築家協会(AIA)日本支部主催)を受賞しました。審査員からは、学生が被災した地域の住民と一体となり建設し、地域の絆をより深めることを可能とする公共建築であることに対して高い評価を受けました。今回の受賞を受け、応急住宅チームリーダーの渡邉 光太郎さんは、「建築を建てることの難しさや、建設を通じた地域住民との交流など普段経験することのない体験をし、たくさんのことを学ぶことができました。これからも現地のニーズに応えた持続的な活動をしていきたいと思います」と述べていました。

2012年 1/6 「名取市図書館どんぐり子ども図書室」完成式

■ 宮城県名取市

名取市図書館が震災による甚大な被害で利用できない状態になり、代替施設の必要性が高まったことを受けて、「どんぐり子ども図書室」の建設に協力しました。本建物は、1階建てで建築面積が156平方メートルと、これまでの「どんぐりハウス」に比べ約6倍の大きさであるため、設計事務所や建築会社が中心となって建設。プロジェクトでは建築全体に関する企画・構想を担当しました。学生メンバーたちは2011年12月に現地を訪問。本を収納する棚を製作したほか、オープン前日の2012年1月5日には、職員の手伝いとして書庫などから図書室への本の運び入れや書架の整理なども行いました。6日にはオープニングセレモニーが開かれ、メンバーの学生と本センターの大塚滋所長、プロジェクトアドバイザーを務める杉本洋文教授が出席しました。

2012年 2/3〜6 「つながる支援」活動を実施

■ 宮城県石巻市

地域の文化と伝統が継承されるよう、同地区で毎年2月に行われる地域の伝統行事「春祈祷」の実施に合わせて地元の子どもや住民らとの交流活動を行いました。本プロジェクトが実施している募金活動「どんぐり募金」の一部を充当し、祭りに使う笛を寄付。祭り前日には、仮設住宅に住む子どもや高齢者が共に楽しめる企画として、「神奈川の郷土料理による交流」と「凧作りおよび凧揚げによる交流」を実施しました。料理による交流では地域に興味を持ってもらうことを目的に、神奈川県横須賀市発祥の「へらへら団子」に、宮城県の郷土料理「ずんだ」餡を合わせる料理に挑戦。凧作りでは、企画に賛同していただいた「相州凧の会」の内田敏夫さんの指導の下、子どもたちが思い思いにイラストを描き込み、オリジナルの凧を制作。どんぐりハウス前の坂道や海岸で凧揚げを楽しみました。

ライトパワープロジェクト

<ものつくりにより最先端科学技術と環境を共に学ぶ>

湘南キャンパス

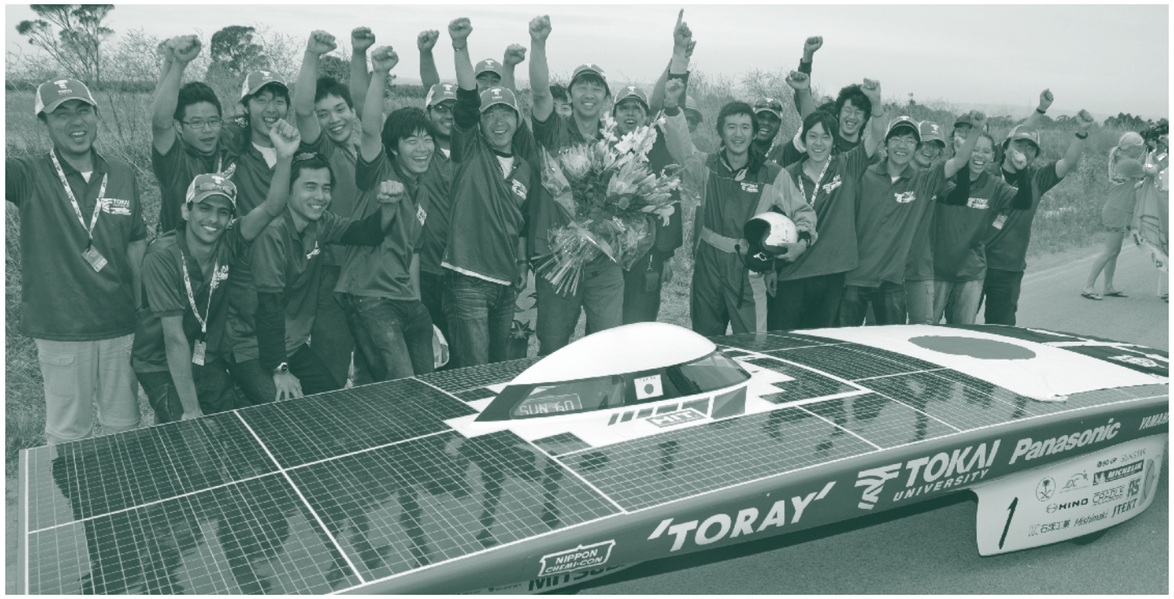
http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/lp/

ソーラーカー、電気自動車、人力飛行機を製作することで環境に優しいエネルギー技術を学び、「ワールド・ソーラー・チャレンジ」2連覇に挑戦。また、各地でのソーラーカーの展示やエコ教室を通して環境教育を実施しました。

プロジェクトリーダー　下崎友大　工学部　動力機械工学科　3年
サブリーダー　河野友里子　工学部　精密工学科　3年
　鈴木一矢　工学部　動力機械工学科　2年
広報リーダー　保坂健太朗　情報理工工学部　コンピューター応用工学科　2年
会計責任者　森下裕貴　工学部　機械工学科　3年
参加人数　90人

10月16日～10月23日

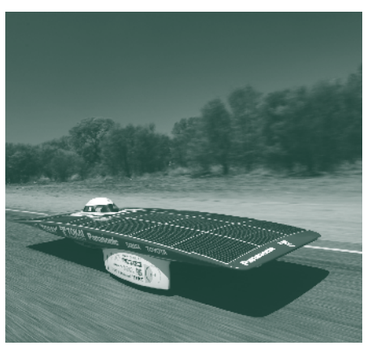
世界最大級のソーラーカーレース「ワールド・ソーラー・チャレンジ」で2連覇を達成!



ワールド・ソーラー・チャレンジ（World Solar Challenge）」は、太陽光のみをエネルギー源として、オーストラリア連邦のダーウィンとアデレード間の総延長3,000kmを走破するタイムを競う世界最大級のソーラーカーレースです。1987年に第1回大会が開催されて以来24年の歴史を有し、今回で第11回目を迎えました。

今大会は、強豪のオランダのデルフト工科大学やアメリカのミシガン大学、スタンフォード大学など世界中から37チームが参戦。本プロジェクトは、公式予選の結果により5番目の順位でスタート。初日からトップに飛び出して、5日間に渡るトップ争いを制し、有力チームを抑えて大会2連覇を飾りました。

■開催日程
2011年10月16日（日）～23日（日）
■会場
オーストラリア連邦　ダーウィン～アデレード（3,000km）
■主催
South Australian Motor Sport Board
■大会スケジュール
10月15日（土）公式予選
10月16日（日）ダーウィンをスタート
10月23日（日）レース終了



▶大会レポート　優勝までの道のり

10月15日｜公式予選で5位に入りました

ダーウィン市内のヒドゥン・バレー・レースウェイで公式予選が実施されました。予選は1周2.87キロのコースを1回だけ周回し、そのタイムを競います。「Tokai Challenger」は、コース入り直前に操作ミスでマシンが動かなくなり、一度ピットに戻り再点検するというアクシデントがあったものの、電気班の迅速な対応ですぐに解決。無事にコースに戻り、2分7秒07で5位に入りました。予選を終えたメンバーはほっとした表情を浮かべ「明日はいい順位でスタートできるので、積極的に上位を狙えると思います」と語っていました。

10月16日｜ワールド・ソーラー・チャレンジ開幕

朝8時30分、WSC開幕。スタートして4分後にトラブルで止まっていたトゥエンテ大学を追い抜くと、地元オーストラリアのニューサウスウェールズ大学、アメリカ・ミシガン大学、オランダ・デルフト工科大学のNuon Solar Teamなどライバルチームを次々と追い抜き、30分後にはトップに。途中、ミシガン大、Nuonに抜き返される場面もありましたが、「争いに巻き込まれるよりも、先頭に立つほうが自分たちのペースで走れる」という判断もあり、2チームを同時に追い抜くと、そのままレース終了の17時30分までトップを守りました。

10月17日｜ブッシュファイヤーで大会史上初のレース中断

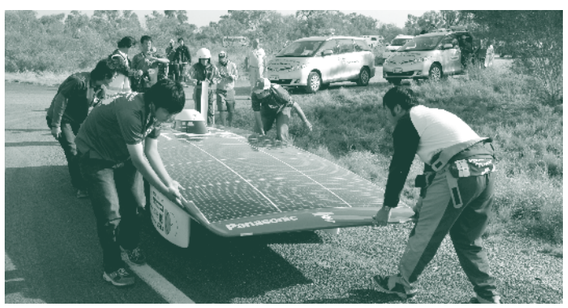
この日最初のCP※であるテナントクリークまでの道中は、強い横風に吹かれるなど難しいコンディションでしたが、2位以降に10分以上の差をつけました。しかし、2番目のCP※であるバロウクリークに向かう途中で、大会主催者から大規模なブッシュファイヤー（山火事）が発生しているとの連絡が入り、テナントクリークから113.5キロ進んだワウチョープで停車。その後約2時間して、本日のレース中断がアナウンスされるという大会史上初のアクシデントとなり、ワウチョープにキャンプすることが決定しました。

10月18日｜度重なるアクシデントの中でも2位との差を広げています

火事の鎮静化を受け主催者や地元警察から走行の許可が出されたため、午前8時から通常通りレースが進められました。バロウクリークに代わってCP※になった201.2キロ先のティーツリーへと出発。その間、消えきらず道路脇に迫る炎なども見られましたが、積極的なドライビングでマシンを前へと進めました。次のセクション以降も、道路脇に竜巻が発生したり、砂塵が空を大きく覆い太陽を隠したりするなど気象面で悩まされたものの、その後に吹き始めた追い風にのって再び加速。2位に35分差と、リードを広げました。

10月19日｜トップを維持も2位チームが差を詰めています

レース4日目、チームは「この先は天気が崩れる可能性があるため、エネルギー消費のペース配分が勝負のカギを握る」と気を引き締めなおし、熊本の本学宇宙情報センターから東京の本学情報技術センター経由で送られてくる気象観測衛星の画像データや、指令車に取り付けられた気象観測装置などを活用し巡航速度を微調整。後半では、翌日の悪天候を見据えたエネルギー節約のため速度を時速85キロから75キロ程度に抑えましたが、トップをキープしたまま128キロを走り、終了時刻の午後5時を迎えました。



10月20日｜ライバルを振り切り歓喜のゴール　2連覇を達成

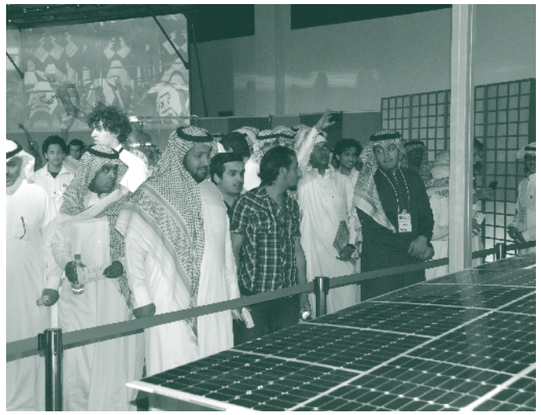
最終日は、24キロ後方まで迫った、過去に4連覇を達成した強豪、オランダ・デルフト工科大学のNuon Solar Car Teamを意識した戦いになりました。チームは、衛星画像データなどから、20日以降アデレード近辺一帯に雨雲が広がることを察知し、日の出直後から充電を開始。最終区間では、予想通り雲が増えて発電量が下がり、厳しいドライビングを強いられながらも、落ち着いた走りで着実にマシンをゴールへと運びました。そして午後1時7分、レースの終了地点へトップで到着。大会2連覇を成し遂げました。

※CP（コントロールポイント）：30分の時間停車が義務付けられており、車体のチェックを行うことが許される。

4/13〜29 サウジアラビアの「ジャナドリア祭」にソーラーカーを出展

■ サウジアラビア・リヤド

毎年100万人以上が来場するほか、サウジアラビアの主要な王族や外国の要人も来賓として多数訪れる、サウジアラビアの国民的文化祭典・ジャナドリア祭（主催：サウジアラビア国家警備隊）に、「Tokai Challenger」を出展しました。これは、今年のジャナドリア祭に日本がゲスト国として招かれたことがきっかけで実現したものです。ソーラーカーは、専用パビリオン「日本館」にある日本貿易振興機構コーナーで展示されました。展示にあたっては、本プロジェクトのメンバーが現地に赴き、ソーラーカーのセッティングや搬出作業を担当。本学に留学中のサウジアラビア人学生とともに、来場者に対してソーラーカーの開発経緯やマシンの性能、オーストラリアや南アフリカの国際大会での優勝経験などを紹介し、交流を深めました。



5/3・4 「2011 ワールド・エコノ・ムーブ」燃料電池部門で四連覇を達成

■ 大潟村ソーラースポーツライン（秋田県）

今大会は震災の影響もあり、開催の是否について検討されましたが、電力供給が不足する中で省エネルギー技術開発を止めてはならないという理由から実施されることに決定。例年より20チームほど少なかったものの、燃料電池部門と鉛蓄電池部門合わせて全57チームが参加しました。本プロジェクトは2010年度に引き続き「ファラデーマジック2」で燃料電池部門に出場。メイン配線の不備が見つかり、スタートが3分遅れるトラブルに見舞われるも、その後は順調にレースを進め、燃料電池部門で優勝、総合7位の成績を収めることができました。ドライバーの伊藤樹さんは、「震災の影響で新エネルギーが注目される中、クリーンエネルギーで走行可能な電気自動車の可能性を示すものになったと思います」と感想を述べていました。

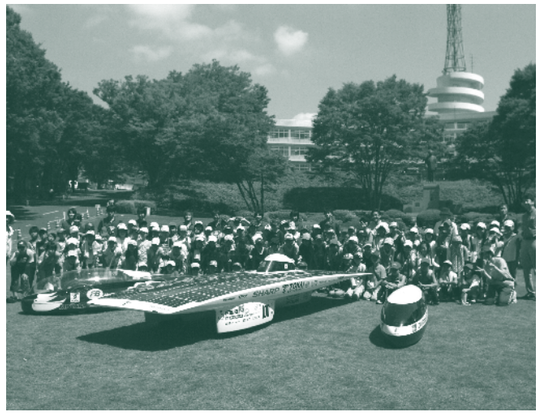
通年 「エコカー教室」「ものつくり教室」を実施

■ 湘南キャンパス

本企画は、近隣の小学生を対象として、当プロジェクトの取り組みと本学の最先端技術を紹介することによって、エコカーの将来性と環境問題について理解してもらい、理科離れの抑止に役立てることとともに、地域との交流を深めることを目的として開催しました。

7月15日の「エコカー教室」には、秦野市立大根小学校の4年生約120人が参加。ソーラーカー「Tokai Challenger」と電気自動車「Car Graphic号」を見学後、デモ走行や「次世代エネルギー」についての講義を行いました。

7月31日と2012年2月26日の「ものつくり教室」には、どちらも50人以上の小学生の生徒が集まり、人力飛行機班が中心となってゴム動力飛行機の製作を行いました。



9/17 「鳥人間交流会」を実施

■ 湘南キャンパス

2012年7月に琵琶湖で開催を予定している「第35回鳥人間コンテスト2012」を目指す46チーム約500名が集い、技術交流を目的として開催。本学、京都大学、横浜国立大学、東北大学、交流飛行会スタッフによる、各団体の機体や技術、活動紹介についてのプレゼンテーションが行われました。その他の班別交流として、プロペラ、カウル、電装、駆動、パイロット、滑空、主翼・フレームの各班に分かれ、ディスカッション形式で質疑応答が行われました。ディスカッション終了後は自由交流として、各自が興味のある団体へ行き来し、機体の骨組みや主翼の形、軽量化の工夫などについてノウハウを交換しました。また、ものつくり館の見学も実施し、スペースに足りないものや工夫した方がよい点などについての意見も伺いました。

12/8 日本記者クラブで記者会見を実施

■ 日本記者クラブ（東京都千代田区）

「ワールド・ソーラー・チャレンジ」で2連覇を成し遂げたことを受け、日本記者クラブからの要請により実現したもので、屋外でのソーラーカーのデモ走行と、ホールでの会見という2部構成で行われました。第一部では、はじめに木村英樹教授がソーラーカー「Tokai Challenger」について解説。引き続き、ドライバーの一人である徳田光太さんが実際にソーラーカーのデモ走行を行い、大きな歓声が上がりました。第二部の会見には、本学から山田清志副学長、大塚滋所長、チーム監督の木村英樹教授、学生リーダーの瀧淳一さん、ドライバーの徳田光太さんの5名が登壇。本学が産学連携などを重視していることや活動母体であるチャレンジセンターの紹介、大会の様子や連覇達成の勝因についてなどを語りました。

2012年 1/10〜13 CES 2012で「Tokai Challenger」を展示

■ ラスベガスコンベンションセンター（アメリカ・ネバダ州）

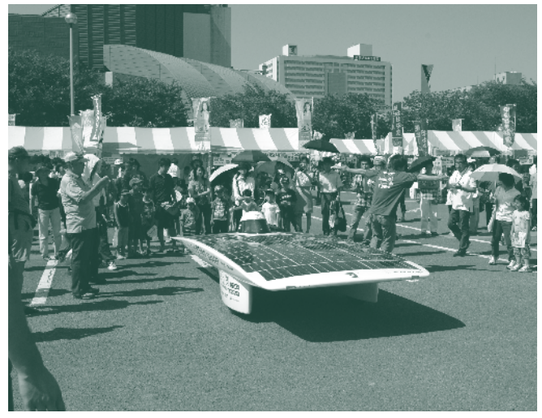
International Consumer Electronics Show 2012 (CES 2012)は、44年の歴史がある世界最大の消費者向けテクノロジートレードショーで、今回は17万2,800平方メートルの会場に3,100以上の企業から2万点を超える新製品の出展がありました。来場者数は15万3千人と過去最大を記録。このCES 2012のパナソニックブース内に、オーストラリア縦断ソーラーカーレース2011 World Solar Challengeで優勝した「Tokai Challenger」が展示されました。2011年式Tokai Challengerは、パナソニック製HIT太陽電池モジュールおよび高容量リチウムイオンバッテリーを搭載しており、同社の創エネルギー・蓄エネルギーに関する技術力が注ぎ込まれています。会場では2011 WSCのハイライトムービーも流されました。

通年 各地にて「Tokai Challenger」を展示

さまざまなイベントからの要望を受け、ワールド・ソーラー・チャレンジ2011で優勝を果たした「Tokai Challenger」の展示を実施。本学の最先端技術を、広く一般の方に触れていただける、多くの機会が設けられました。

■7月16・17日　「伊勢原産業フェア」（伊勢原市役所）
■11月22・23日　「クルマ未来博2011」（愛・地球博記念公園）
■12月15〜17日　「エコプロダクツ 2011」（東京ビッグサイト）

2012年
■2月11日　「川崎国際環境技術展 2012」（川崎とどろきアリーナ）
■3月1日　「多摩テクノプラザ 2nd Anniversary」（東京都立産業技術センター）
■3月3日　「Panasonic関連イベント」（熊本）（岡山）（岐阜）
■3月6〜12日　「NHK横浜放送局ハートプラザ」（NHK横浜放送局）



2012年 1/16〜19 「ワールドフューチャーエナジーサミット」に出展

■ アラブ首長国連邦（ＵＡＥ）・アブダビ

同国では現在、環境技術への関心が高まっていることから国営企業のアブダビ・フューチャー・エナジー社が主催したもので、展示会や国際会議が開催されました。本プロジェクトでは「Tokai Challenger」や大学紹介のパネルなどを展示し、宮沢聡太さんと舘林真一さんが説明員として現地で参加しました。本学の展示は会場でも大きな注目を集め、アブダビ首長国のムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン皇太子やコソボ共和国のアティフェテ・ヤヒヤガ大統領ら各国の要人も来場。学生が制作した世界最速のソーラーカーであることやマシンの性能などを解説、本学では日本で最も多くの留学生をUAEから受け入れており熱心に学んでいるほか、本プロジェクトにもアラビア諸国からの留学生が参加していることなどを説明しました。

東海大学学生ロケットプロジェクト(TSRP)

湘南キャンパス

<ロケットの製作、打ち上げ、計画の立案、交渉、実行を通じてものつくり、およびプロジェクトマネジメントについて学ぶ>

ハイブリッドロケットの高高度(3〜5km)到達に向けた要素技術の開発とマネジメントに取り組みました。

プロジェクトリーダー	川井寛量	工学部	航空宇宙学科	4年
サブリーダー	柳下未来	工学部	航空宇宙学科	4年
広報リーダー	佐藤陽介	工学部	航空宇宙学科	3年
会計責任者	中元啓太	工学部	航空宇宙学科	3年

参加人数　51人

8/20〜26 「第7回能代宇宙イベント」でH-25ロケット打ち上げ成功

■ 能代宇宙広場(秋田県浅内第三鉱さい堆積場)

日本最大規模のロケット打上および自律ロボット制御のアマチュア大会「第7回能代宇宙イベント」に参加し、ハイブリッドロケットH-25の打ち上げ実験を行いました。本プロジェクトはメンバー25人が参加。24日の打ち上げ当日は大きなトラブルもなく、16時30分にH-25号機の打ち上げを無事成功。到達高度は約320mでした。21日の一般公開日には広報ブースにてパネルや実機などの展示を行い、打ち上げに参加した他団体の方々、多くの来場者から、「学生たちが能代市で活動してくれるだけで、市内の活性化につながる。本当にありがたい」「これからの技術向上に頑張ってほしい」「東海大の総合技術をもっと学びたい。いつか大学訪問を実施したい」「やはり、東海大のハイブリッドロケットは、速く高く飛んでいく。我々もそれを目指したい」といった高評価をいただきました。

9/17・18 「宇宙開発フォーラム2011 (Space Development Forum:SDF)」に参加

■ 東京大学本郷キャンパス

2002年11月設立の学生団体(宇宙開発フォーラム実行員会)によって2003年度から毎年開催されているイベントで、今後の宇宙開発を担う人材育成のため、「文科系と理科系の融合」を掲げ、学生に宇宙開発に関わる契機を提供することを目的としています。

本プロジェクトは両日のポスターセッションに参加し、8月に実施した第7回能代宇宙イベントでのハイブリッドロケット打ち上げ実験を中心としたプレゼンテーションを行いました。また、実機ロケットやエンジン、搭載物も合わせて展示いたしました。ブースには多くの方々が訪れ、プロジェクトメンバーはハイブリッドロケットのエンジンの特徴や飛翔する仕組み、構造などについて分かりやすく解説しました。

ブースを訪れた方たちからは、「これからも日本のために宇宙開発を頑張ってほしい」(元宇宙開発事業関係者)、「理系の内容だが、文系の私にもよく理解することができた。更に宇宙に興味を持った」「学生でロケット開発を行っているのは素晴らしいことだと思う。勉強できる環境が整っていて羨ましい」(他大学学生)、といった意見が聞かれました。

2012年 2/17〜19 「第10期ハイブリッドロケットプロジェクト」で打ち上げを実施

■ 北海道大樹町多目的航空公園

ロケット打ち上げの高高度化を図るにあたって、要素技術の実証を目的として行われた今回の実験では、2段分離機構システム、φ150mm径の機体構造の構築、テレメトリシステム、飛翔時における強制分離についての検証を「H-26号機」および「H-27号機」の2機体に分けて試みました。

17日〜18日に予定されていたH-26号機の実験は、搭載機器のトラブルと点火機の不良などにより打ち上げを断念。19日に行われたH-27号機の実験では、トラブルを全て改善することができ、16時39分に無事打ち上げを成功させました。予定通り5秒後(高度約400m)に分離信号を出力し分離、パラシュートを強制解散することができました。パラシュートが完全に展開され落下する時の最高到達高度は簡易解析によると416mでした。テレメータからのGPS受信も行うことができ、無事回収作業を終えました。

大樹町役場の方からは「町の活性化のため、今後も打ち上げを行い続けてほしい」、新聞社の方からは「大学生でこのような規模の実験ができることは非常に素晴らしい」との言葉をいただきました。メンバーは「今回は前例のないトラブルが発生してしまいましたが、今後は見落としのないよう慎重にプロジェクトを進めたいと思います」と述べていました。

Tokai Formula Club

湘南キャンパス

<大学の授業+αでより多くの専門知識・技術を実際に体験することによって、企業のSEEDSを創出する力を身につける>

第9回全日本学生フォーミュラー大会優勝を目指し、3月に車体の試行運転ができるように、チームの弱点でもある静的審査の研究に力を入れた活動を行いました。

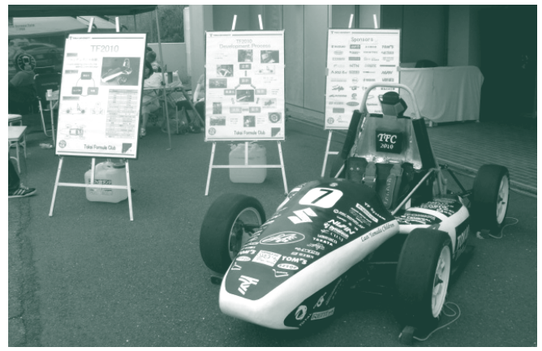
プロジェクトリーダー	賀来大介	工学部	動力機械工学科	3年
サブリーダー	斎藤雄太	工学部	動力機械工学科	2年
広報リーダー	坂元一星	工学部	動力機械工学科	3年
会計責任者	鈴木聖也	工学部	動力機械工学科	3年

参加人数　59人

6/5 第45回 湘南ヒストリックカークラブ大磯ミーティング (SHCC大磯ミーティング)」に出展

■ 大磯ロングビーチ(神奈川県大磯町)

本イベントは、1969年までの生産か、大会主催者に承認された車両のみが参加できるジムカーナ形式の競技大会で、本プロジェクトは第33回より特別枠として参加しています。開催中は、2010年度「全日本学生フォーミュラ大会」参戦マシン「TF2010」を展示。予定していたデモ走行は車両トラブルにより中止となりましたが、子どもたちを対象に試乗を実施。多くのご家族連れの方に喜んでもらえました。参加メンバーは、「マシン製作に関するいろいろなアドバイスを受けることができました。またクラシックカーの走行を間近で観戦することができて感動しました」と感想を述べていました。



8/1〜3 「第1回 3支部合同試走会(富士走行会)」に参加

■ 富士スピードウェイ(静岡県駿東郡小山町)

本イベントは、「第9回全日本学生フォーミュラ大会」へ向けての調整を目的としたもので、関西・中部・関東地区から同大会に参加を予定している26のチームが富士スピードウェイに集結しました。本プロジェクトは新作マシンの「TF2011」で参加しましたが、1日目の車検で不合格、マシントラブルも重なり、予定していた試走を十分に行うことができませんでした。参加したメンバーは、「車検で修正が必要な部位を正確に知ることができたことは収穫でした」「他大学との意見交換もでき、今後の活動にプラスとなる走行会でした」と、本大会に向けて意欲を新たにしました。

9/5〜9 「第9回 全日本学生フォーミュラ大会 ーものづくり・デザインコンペティションー」に出場

■ エコパ(静岡県・小笠山総合運動公園)

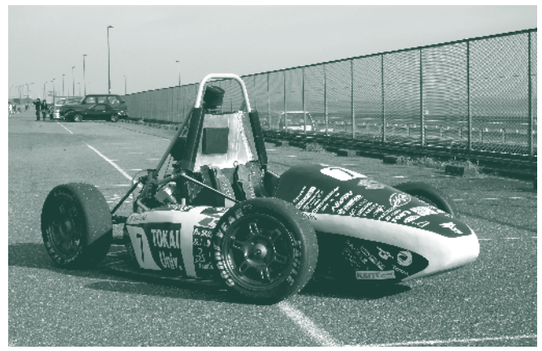
本大会は、自動車産業を担う人材育成を目的として2003年にスタートしたもので、今年度は日本国内外から87チームがエントリー。その中から書類審査を通過した75チームが本戦へ出場しました。本プロジェクトは、走行性能、操作性、整備性を追求したマシン「TF2011」で出場し、総合11位、省エネ賞では2位を獲得。大会に参加した松元禎祥君は「大変なこともたくさんありましたが、社会に出て役に立つ貴重な経験ができたことは、大きなプラスになりました。この経験を次の大会に活かすために、後輩にノウハウを伝えていきたいと思います。」と感想を述べていました。

11/27 「第46回 湘南ヒストリックカークラブ大磯ミーティング」に出展

■ 大磯ロングビーチ(神奈川県大磯町)

湘南エリアを中心に活動している古い車のクラブ「湘南ヒストリックカークラブ」主催による、「SHCC大磯ミーティング」に参加しました。

本プロジェクトは今回2012年度製作マシン「TF2010」および2011年度製「TF2011」の両マシンを出展し、TF2010で2回のデモ走行を実施。展示した車体については細かい技術的なアドバイスをいただくなど、車好きが集まるイベントならではの交流が行われました。参加したメンバーは「沢山の方から貴重な意見や情報をいただくことができたので来年度のマシン作成に活かしていきたい」と抱負を述べていました。



サイエンスコミュニケーター

湘南キャンパス

<メンバー、一人ひとりのサイエンスコミュニケーターとしてのスキルの向上>

子どもから大人まで多くの人が科学に興味を持ってもらえるよう自己の専門性を高め、その成果として、「星の学校」、「サイエンスカフェ」をはじめとする科学イベントを実施しました。

プロジェクトリーダー　梶田聡史　理学部　物理学科　3年
サブリーダー　永倉匡　理学部　物理学科　3年
　山田実俊　理学部　数学科　3年
広報リーダー　榎本充　工学部　精密工学科　2年
会計責任者　澄田優希　理学部　物理学科　2年
参加人数　29人

6/13 「Science News 第1号 」を発行

■ 湘南キャンパス

身近な科学の話題を紹介し、楽しみながら科学について学べる「Science News」を発行しました。第1号では、最近ニュースで数多く取りあげられている「放射線」について、本学工学部原子力工学科主任 大江俊昭教授のインタビューを行い、解説を掲載。他にも「知っておきたい科学者」にアイザック・ニュートンを紹介するなど、楽しみながら科学について学べる内容として配布されました。

8/3 「上野エコ・キッズ探険隊 作ってみよう!自然まるごと図かん」を実施

■ 上野公園・台東区社会教育センター

本企画は、台東区周辺の小学校1～3年生を対象に、上野公園の自然観察をとおして環境への関心を高めるための取組みです。今回、主催側より「環境」をテーマにした企画の要請を本プロジェクトが受けたことにより実現しました。当日は25名の小学生が集まり、採取した落ち葉や虫、小枝や鳥の羽根などをもとにスケッチや観察記録をつけ、図鑑を作成。互いの作品について感想を述べ合い、楽しみました。

8/13～15 「第22回 星の学校」の授業 「星のつどい」において講義を実施

■ 海老名市役所

本イベントは、小中学生を対象に、宇宙や天文の神秘と面白さを伝えるため毎年開催されているものです。今回は「金環日食」と、「金星日面経過」の観測準備をテーマに、26名の子供が参加しました。本プロジェクトは、「星のつどい」の講義の中で、太陽系と銀河をテーマに、楽しみながら宇宙について学べるように、クイズ形式の講義を展開。多くの子どもたちから楽しかったという意見をもらうことができました。

10/1 第1回「科学喫茶」を開催

■ 湘南キャンパス コムスクエア

本企画は、2012年5月に金環日食が観測されることに向けて、宇宙について関心を高めるきっかけにしてもらおうと、情報の交換と共有の場を提供したものです。当日は「東海大学学生ロケットプロジェクト」、「ウルトラライトスペースシステムズプロジェクト」、「天文宇宙同好会」、「東海サテライトプロジェクト」が参加。各グループの発表について、本学総合教育センターの比田井昌英教授がそれぞれ解説を行いました。

12/10 第2回「科学喫茶」を開催

■ 湘南キャンパス コムスクエア

2回目のテーマは、当日の夜に観測された「皆既月食」と2012年5月21日に起こる「金環日食」。講師に神奈川工科大学から三井和博教授をお迎えし、皆既月食と金環日食についてや、金星の日面通過、惑星の蝕、太陽以外の恒星の蝕などについてご講演いただきました。会場には近隣の中学生や地元の方、本学学生ら20人が集まり、質疑応答などの交流や、双眼鏡や望遠鏡を使い、月食になる前の月の観測も行われました。

2012年 1/6 「Scio（スキオー）」を発行

■ 湘南キャンパス

「Science News」を冊子に発展させ、より深く科学を知るきっかけにしてもらうことを目的として、科学と人を繋ぐフリーペーパー「Scio（スキオー）」第1号を発行しました。主にその時期に話題となっている科学についてのキーワードや事象について取り上げており、今号では「お家でできる科学実験」「知っておきたい科学者」「季節の星座」のコーナーのほか、特集として2012年5月に観測される金環日食についても取り上げました。

スポーツ社会貢献プロジェクト

湘南キャンパス

<スポーツイベントにおける地域のニーズを知る>

これまでに創り上げてきた大学周辺地域との関係を活用し、本学の特色をいかしたスポーツイベントを開催。また、イベントの交流を通じて、さらなる地域のニーズを掘り起こし、新たな企画を立案しました。

プロジェクトリーダー　立谷勇樹　体育学部　スポーツ・レジャーマネジメント学科　3年
サブリーダー　坂間太樹　体育学部　スポーツ・レジャーマネジメント学科　3年
　矢部真純　体育学部　生涯スポーツ学科　3年
広報リーダー　小栗英恵　体育学部　スポーツ・レジャーマネジメント学科　2年
会計責任者　鈴木頌平　航空宇宙学科航空宇宙学専攻　3年
参加人数　53人

5/5 「こどものつどい」でイベントを実施

■ 秦野市中央運動公園陸上競技場

こどもの日を祝うお祭りとして、水無川上空に約80匹の鯉のぼりが掲げられたほか、家族で楽しめる様々な催しが行われ、約3500人が来場しました。本プロジェクトは親子で参加できることをコンセプトに、「川渡り」、「クイズ大縄」、「ストラックアウトフリスビー」、「豆つかみ」の4つのスポーツゲームを実施。プロジェクトメンバーは「楽しんでいただくことができてよかったです。今後のイベント活動にも、経験を活かしたいと思います」と述べていました。

9/25 「東海スポーツフェスタ2011」を開催

■ 湘南キャンパスラグビー場

「地域と地域、地域と学生、学生と学生を繋ぐ」をテーマに開催され、約200人の地域の方々が参加しました。フィットネス体操や大道芸の披露、身体測定、本学で活躍するスポーツ選手の手形や写真などの展示といったブースを用意。また、会場には地域の方々や本学学生・教職員約1500人から集めた「笑顔になる瞬間」の写真やメッセージで「SMILE」の文字を浮かび上がらせたモザイクワードも展示されました。

10/16 「伊勢原すこやかスポーツデー」に参加

■ 伊勢原市総合運動公園体育館

心身の疲れをスポーツによって解消することを目的として開催され、約180名が参加。誰でも簡単に参加できる「インディアカ」、「ペットボトルラクロス」、「ボックスホッケー」、「バスケットピンポン」の4種目のニュースポーツを用意しました。参加した方からは、「初対面の人と手を繋いで一つの事をする機会は少なくなった。今回のようなイベントはとても良いですね」といった意見をいただきました。

10/29 みなと子どもの家で スポーツイベントを実施

■ 平塚市役所みなと子どもの家

「スポーツで広げよう!みんなの輪!」をテーマにみなと子どもの家主催のもと、スポーツを通して交流を深めることを目的として、本プロジェクトが共催したものです。当日は40名の小学生が集まり、「だるまさんが転んだ」や「フルーツバスケット」、大縄跳びや鬼ごっこなどのミニゲームで盛り上がりました。終了時には帰りたくないと言い出す子どもがでるほど、仲良く交流することができました。

11/19 「youth age a go-go ! Festival 」にて スポーツイベントを実施

■ 伊勢原市 青少年センター

伊勢原市を中心に活躍中の若者と青少年健全育成団体による子ども・若者育成支援強調月間イベントとしてスポーツイベントが開催されました。本プロジェクトは「みんなでスポーツ」と題して、「キャッチザスティック」、「アルティメット」、「アルプスいちまんじゃく」などのゲームを実施。当日は雨天となってしまいましたが、会場を訪れた小学生児童と保護者の皆様10名が集まり、2時間かけてゲームを楽しみました。

2012年 1/7 第4回「スポーツ教室DAY」を開催

■ 湘南キャンパス

本企画は「繋ぐ」をテーマに、大学トップレベルのスポーツ選手を有する本学の特色を活かし、子どもたちに現役選手らが直接指導を行い、スポーツの楽しさや素晴らしさを知ってもらうと共に、大学と地域との交流を深めることを目的としたものです。大学湘南校舎体育会の協力のもと、当日は約400名の小・中学生が参加。大学生選手らによる模範プレーの見学や技術指導のほか、一緒に競技を行うなど、高い競技力を学びました。

Beijo Me Liga

湘南キャンパス

<異文化交流を通じて、企画力、実行力を学ぶ>

外国籍の子どもたちに対して、日本人と触れ合うことでしかできない体験や日本語修得に意欲的になってもらえるような交流・支援、「マルチカルチャー・キャンプ」の実施、定期的な日本のブラジル人学校訪問を行ないました。

プロジェクトリーダー	今井和華子	教養学部	国際学科	2年
サブリーダー	村田美帆	経済学部	政治経済学科	3年
	ヴー・ホアン・ミン	教養学部	国際学科	2年
広報リーダー	小平菜美	教養学部	国際学科	4年
会計責任者	小林彩音	教養学部	国際学科	2年

参加人数　56人

4/24 「イースターイベント」を実施

■ 厚木市青年の家

ブラジルで習慣となっているイースターを経験したことがなく、また、東日本大震災の後多くのブラジル人が帰国してしまい、不安な中で生活を送っている日系ブラジル人の子どもたちを少しでも勇気づけたいと、神奈川県下唯一の日系ブラジル人学校「エスコラ・アクアレラ・ブラジル」の児童・生徒および近隣の小学校児童を対象に実施。20名の子どもたちがイベントを通じて交流を深めました。

6/12 「Festa Junina」を実施

■ 厚木市青少年の家跡地自然園

「Festa Junina」は、夏至を迎える際の豊穣を祈願するお祭りが起源とされ、ブラジルでは6月の風物詩となっています。当日は「エスコラ・アクアレラ・ブラジル」の児童・生徒とその家族のほか、様々な国籍の方々約150人が来場。参加した子どもたちはお祭り恒例の「田舎者スタイル」に身を包み、フォークダンスやゲーム、バーベキューなどを楽しみました。また、日本の文化を伝えるために、魚釣りや輪投げなども取り入れて交流を行いました。

7/29〜31 異文化交流イベント「茨城キャンプ」を実施

■ Escola Opcao（エスコラ・オプソン/茨城県常総市）

ブラジル人学校Escola Opcaoの生徒60名と近隣住人の方々を対象に、本プロジェクトメンバー35名が参加し、異文化交流イベントを行いました。日本の文化に触れてもらうため、子どもたちと一緒に折り紙や紙飛行機作り、スポーツなどのアクティビティを実施。同学校の先生からは「『もっと皆さんとお話がしたいから、日本語の勉強頑張る』と、たった3日で子どもたちの価値観が変わりました」と、喜びの声をいただきました。

8/23 「夏休みセミ採りイベント」を実施

■ 八菅山(愛甲郡愛川町)

日系ブラジル人学校「エスコラ・アクアレラ・ブラジル」の児童・生徒を対象に、自然や虫などの命と触れあうことを目的として実施しました。セミの他にもバッタ、トンボ、ガなどを見つけることができ、2、3歳の子どもたちは捕まえやすいバッタを採って喜んでいました。参加メンバーは、「想像していたよりも子どもたちが真剣に虫を探していたことに驚かされました」と、子どもたちの楽しんだ様子を伝えていました。

10/8〜10 異文化交流イベント「マルチカルチャーキャンプ」を開催

■ 湘南キャンパス

ブラジル人学校の生徒やその保護者、本学の学生などを対象として、2泊3日の異文化交流イベントを開催、約200名が参加しました。1日目は「平和の巨大な絵」を全員で描き、2日目は運動会やダンスのワークショップ、野外音楽会を実施。最終日には11号館展示室にて「生命と自然展」を鑑賞。大学の授業の雰囲気を味わってもらおうと、本プロジェクトアドバイザーの小貫大輔准教授の講義も実施しました。

キャンパスストリートプロジェクト(C.A.P.)

湘南キャンパス

<総合大学らしい地域活性化をするために必要な組織力を学ぶ>

地域交流イベントを行うイベントチーム、フリーペーパー発行のThLive!チームで構成されており、各々が身に付けた組織力・運営力を共有し、より質の高い地域活性化活動を行うことを目標として取り組みました。

プロジェクトリーダー	武永雄太	工学部	建築学科	2年
サブリーダー	城田佳穂	文学部	広報メディア学科	2年
広報リーダー	北島圭	工学部	建築学科	2年
会計責任者	植松郁恵	文学部	心理・社会学科	3年

参加人数　35人

6/24 2012年3/16 「ThLive!」14号・特別号を発行

ThLive!（スライブ）は、湘南キャンパス周辺地域との交流を深め、キャンパスストリートの活性化と、地域や学生の魅力を発見することを目的としたコミュニケーションペーパーです。14号のテーマは「今年の夏」。夏バテ防止策を紹介しているほか、人気のジェラテリア「クァドリフォリオ」ではThLive!とコラボレーションして創りあげた季節限定フレーバー「アメリカンチェリーのジェラート」が登場。また「頑張る学生の素顔」コーナーでは、3.11生活復興支援プロジェクト応急住宅チームの施行リーダーを担う田中祐也さん（工学部建築学科4年）を取りあげ、東日本大震災によって被害を受けた地域での活動の様子を伝えました。2012年3月には「日常にスパイスを」をテーマに特別号を発行。周辺地域のお店を取材・掲載するとともに、街歩きハイキングコースを紹介しました。

6/28〜7/1 「TOKAI音食WEEK」を開催

■ 湘南キャンパス噴水前特設会場

地域と大学をつなぐ交流型イベント「TOKAI音食WEEK」を開催しました。期間中は本学学生・教職員のほか、近隣から地域の方々延べ1万5千人以上が訪れ、湘南キャンパス周辺地域の飲食店が提供するこの街ならではの「食」と、ライブパフォーマンス「音」を楽しみました。会場を訪れた方々からは「イベントで地域のお店を知り、近くにあるので今後も利用したい」「地域とのコミュニケーションができて、活性化にも繋がると思います」「3か月に1回やってもいいと思う」といった声が聞かれたほか、「毎年内容がほぼ同じなので、新しいものがあると良い」といった意見もありました。また、アンケート調査では「イベントをきっかけに地域の食店舗を利用してみたいと思ったか」については77%の方が「はい」と回答。「地域活性化への効果」については85%の人が「ある」と感じ、イベントの満足度については「とても楽しかった」「まあまあ楽しかった」が合わせて93%と、高い評価を得られました。

12/5〜25 「東海大学クリスマスU-night!」を実施

■ 湘南キャンパスおよび周辺地域

6回目を迎えた本イベントは、10年度に引き続き、小田急線東海大学前駅の広場にクリスマスツリーを設置したほか、駅前商店街から湘南キャンパスまでの通学路に街灯フラッグを掲げてキャンパスと地域をクリスマスらしい演出で繋ぎました。また、湘南キャンパスのシンボルと言える1号館鉄塔をツリーに見立て、ライトアップを行いました。さらに、今回は参加型のワークショップを3つ企画し実施。「クリーンクリスマス」では20名の参加者と共にキャンパス周辺の清掃にあたり、燃えるゴミだけでも2.6kg集めることができました。サイエンスコミュニケーターと協同して行った、ゆきだるまやサンタがペットボトルの中で浮き沈みする浮沈子（ふちんし）を利用した科学実験おもちゃ作りのワークショップ「クリスマスサイエンス実験をしよう!」には36名の方が参加、クリスマスオーナメントを作る「オーナメントデコっちゃお♪」には約70名の方が参加しました。

病院ボランティアプロジェクト

湘南キャンパス

<医療を通じて、人々が日々の“楽しみ”を増やすためにできることを学ぶ>

医学部付属病院での病棟ボランティア、医療にかかわるセミナーの開催、癒しのコンサートを行うとともに、発展途上国へワクチンを贈るためのペットボトルキャップの回収を実施しました。

プロジェクトリーダー	原嘉宏	工学部	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻 2年
サブリーダー	上沼裕太	工学部	医用生体工学科	1年
広報リーダー	杉崎央幸	工学部	電気電子工学科	2年
会計責任者	長谷川弘敬	法学部	法律学科	2年

参加人数 30人

7/12・12/15
第7回セミナー・第8回セミナーを開催
■ 湘南キャンパス・松前記念館講堂

第7回は本学文学部心理・社会学科の近藤卓教授を講師に招き、「今思いやり、足りてますか? ～うなずきから始まる対人援助～」をテーマに講演。第8回は死生学研究会代表の内田誠氏を講師に「死との向き合い方 ～限られた人生―今できること～」をテーマに講演を行いました。

8/5
第9回癒しのイベント「祭ばやしがきこえる」を開催
■ 東海大学医学部付属病院

入院されている方に少しでも楽しんでいただける場を提供することを目的として、今回は「夏祭り」をテーマに開催しました。民謡団体「嬉多國社中」と、「東海大学響」を招き、約130名の患者さんを前に民謡などを披露。手作りのミサンガを患者さんへ贈り、イベントを締めくくりました。

12/17
第10回癒しのイベント「Night of X'mas ～星降る夜のプレゼント～」を開催
■ 東海大学医学部付属病院

秦野市と平塚市で活動を行っている合唱団体「コールソネット」と「コールグリーン」による、クリスマスにちなんだコンサートを開催しました。イベント当日は会場に約160名の患者さまとご家族が集まり合唱を楽しみました。イベントの最後には、手作りの松ぼっくりのツリーを患者の皆さんに贈りました。

Music Art Project（MAP）

湘南キャンパス

<音の感じ方を学びたい>

本学松前記念館講堂、海老名市民文化会館、伊勢原市文化会館などで演奏会を実施するとともに、メンバー個人の音楽感性の向上に努めました。また、2012年度開催予定のオペラの企画を開始しました。

プロジェクトリーダー	松ケ野緩和子	教養学部	芸術学科	3年
サブリーダー	中島麻耶	教養学部	芸術学科	4年
	北澤彩香	教養学部	芸術学科	3年
広報リーダー	伊東広大	教養学部	芸術学科	2年
会計責任者	赤津恵理	教養学部	芸術学科	2年

参加人数 156人

6/29・12/22
「チャリティーコンサート」を開催
■ 湘南キャンパス・松前記念館講堂

東日本大震災によって被害を受けられた方々に音楽を通じて支援を届けることを目的として、コンサート公演に合わせて募金活動を実施しました。両日とも、クラシックからポップス、映画音楽などのジャンルから親しみ深い楽曲を選曲し演奏。会場には多くの方が訪れ、募金が寄せられました。来場者からは「ただ募金を集めるのではなく、このような演奏会を同時に開いたところが良い」といった意見をいただきました。

7/5
「CAMELIA」上映会を実施
■ 湘南キャンパス・松前記念館講堂

脚本から作曲、そして演出までの全てをプロジェクトメンバーが手がけ、2011年2月、伊勢原市民文化会館(神奈川県)で公演されたオペラ「CAMELIA」を、再度を楽しんでもらう機会を提供するために、記録DVDの上映会を開催しました。当日会場には学内外から48名が来場。メンバーは「改めて映像で作品を鑑賞し、制作していた当時の自分のオペラに対する熱意が蘇りました」と感想を述べていました。

環境キャラバン隊

湘南キャンパス

<大学近辺の住民を中心に『身近にできるエコ』を伝える環境啓発活動方法を学ぶ>

主に小学生を対象とし、身近にできるエコを伝える環境教室を開催。そのため「ABC活動（あたりまえのことを、ばかにしないで、ちゃんとやる）」をメンバー内でも徹底して活動に取り組みました。

プロジェクトリーダー	篠宮英介	教養学部	人間環境学科	3年
サブリーダー	田村裕	教養学部	人間環境学科	3年
	坂本明日香	教養学部	人間環境学科	3年
広報リーダー	鷹栖麻里	教養学部	国際学科	2年
会計責任者	濵村静加	教養学部	人間環境学科	2年

参加人数 37人

11/19
「くすのき祭」でエコレンジャーを披露
■ 平塚市立旭小学校

旭小学校の児童・保護者、近隣の住民の方々を対象に、身近にできるエコを伝える環境劇「エコレンジャー」を公演しました。メンバー扮するレンジャーが石油や水の有限性、リサイクルなどについて解説すると、会場からは驚きの声や歓声が上がっていました。

12/10
地球温暖化防止月間特別企画に「エコレンジャー」が出演
■ 板橋区立エコポリスセンター(東京都板橋区)

板橋区立エコポリスセンター主催により、環境に関わる様々な催しが行われ、本プロジェクトは、エコレンジャーを通じて、「節電」「節水」「3R」「燃料の大切さ」「新エネルギー」のテーマについて、子どもたちにエコを伝えました。また、エコバス「天ちゃん号」の展示も行いました。

9/8～16・2012年 2/20～24
「夏季・春季キャラバン」を実施

湘南キャンパス周辺の小学校を訪ね、小学生を対象に、環境教室を実施。エネルギー事情に焦点を当てた体験型授業と、環境劇「エコレンジャー」を披露しました。

夏期: 秦野市立末広小学校・平塚市立みずほ小学校・秦野市立堀川小学校・厚木市立依知南小学校・相模原市立東林小学校
春期: 私立東海大学付属小学校・静岡市立清水入江小学校

Tokai International Communication Club (TICC)

湘南キャンパス

<留学生と外国人児童生徒が生活しやすい学校づくりを目指して学習支援等の活動を行う>

留学生との交流や外国人児童生徒の学習支援に必要な異文化コミュニケーションスキルを身に付け、日本語・日本文化教授のための基礎知識・スキル、在日外国人についての諸問題を学びました。

プロジェクトリーダー	相澤陽介	観光学部	観光学科	4年
サブリーダー	小野綾華	教養学部	芸術学科デザイン学課程	4年
	舘田奈緒美	政治経済学部	経済学科	4年
広報リーダー	田綿秀光	工学部	建築学科	4年
会計責任者	小倉江里賀	教養学部	国際学科	3年

参加人数 55人

6月～7月
外国人生徒の学習サポート活動を実施
■ 秦野市立本町中学校

期間中は毎週1回、10人の学生が同中を訪ね、希望する外国人生徒に、放課後の時間を使って宿題や教科の学習を支援しました。
活動ではベトナムやブラジル、ペルーなどの国籍を持つ生徒が各回5人ほど参加し、数学や英語などの学習に取り組みました。

8/19・26
「宿題やっつけプロジェクト」を実施
■ 湘南キャンパス

日本語が不自由な外国人の子どもにとって大きな負担となる夏休みの宿題を支援。両日とも警報が発令されるほどの豪雨となり、当初予定していた参加者5名のうち2名の参加となってしまいましたが、メンバーは宿題の進捗状況を確認しながら、丁寧にサポートを行いました。

2012年 1/12
第3回「国際理解シンポジウム」を開催
■ 湘南キャンパス

国際理解を深める啓発活動の一環として、「あなたの外国人のイメージは?～これまでの先入観の流れと今を生きる留学生のホンネ～」と題し、本学総合教育センターの加藤泰教授の講演と、留学生3名のプレゼンテーションを実施。学生や教職員、地域住民など約60名が参加しました。

Takanawa共育プロジェクト

高輪キャンパス

<高輪地域周辺との交流により、社会に通用する能力コミュニケーションの確立>

高輪商店街メリーロードの清掃活動や高輪神輿同好会と連携した神輿担ぎ、クリスマスイルミネーションの点灯など、地域社会との交流で開かれたキャンパスを目指しました。

プロジェクトリーダー	高田雄平	情報通信学部	情報メディア学科	2年	
サブリーダー	川瀬克弥	情報通信学部	情報メディア学科	2年	
	中島清舟	情報通信学部	通信ネットワーク工学科	4年	
広報リーダー	森山雄大	情報通信学部	経営システム工学科	3年	
会計責任者	斉藤啓三	情報通信学部	情報メディア学科	4年	参加人数　37人

通年

地域清掃活動を実施

■ 高輪キャンパス～高輪警察署方面・メリーロード高輪

キャンパス周辺を清潔に保つことで地域に貢献するために、毎月、地域住民の方々と「高輪ブランド向上プロジェクト」として地域活性化のための会合を開き、地域の要望を取り入れながら、清掃活動を実施。参加メンバーは、「道ですれ違った地域の方々に、『ありがとう』『頑張ってね』と声をかけていただき、達成感を感じました」「次回はより周囲に気を配り、街を綺麗にしていきたいと思います」といった感想を述べていました。

12/23

「キャンドル教室」と「クリスマス演奏会」を開催

■ 高輪キャンパス

キャンドル教室には約30名が参加し、キャンドルアーティストDEJAVU氏の指導でオリジナルのキャンドルを制作しました。その後、ジャズ研究サークル「Tokai Jazz Ensemble」によるクリスマス演奏会を開催。また16日～25日の期間、クリスマスツリーの設置とライトアップを行いました。ライトパワープロジェクトからソーラーパネルを譲り受け、短い時間でしたが発電した電力で点灯させることに成功しました。

三保活性化プロジェクト

清水キャンパス

<地域との交流を通して、三保活性化に貢献する>

静岡市清水区三保地区を活性化するために、科学・音楽・美術の分野に加え、マリンスポーツ、生物の面白さについても発信。また、地域の清掃や祭など地域活動に積極的に参加して盛り上げました。

プロジェクトリーダー	土屋慧子	海洋学部	海洋生物学科	3年	
サブリーダー	寺田森	海洋学部	海洋生物学科	3年	
	山中優愛	海洋学部	海洋生物学科	3年	
広報リーダー	伊藤美緒	海洋学部	海洋生物学科	2年	
会計責任者	蜂谷優樹	海洋学部	海洋文明学科	3年	参加人数　39人

5/8

科学実験教室を実施

■ 三保生涯学習交流館（静岡県静岡市）

地域の子どもたち向けの体験教室を行っている「三保少年教室」に講師として招かれました。当日は小学生約25人が参加し、水ガラスと塩化コバルトを使って結晶を作る科学実験を披露。同様の技術が、災害などの際にも活用されていることなどについても紹介しました。

7/7～10

第59回「清水七夕まつり」に出展

■ 静岡市・清水駅前銀座商店街他

学園として出展した七夕飾りのデザイン及び製作を、デザインチームが担当。サイエンスチームは東海大学ブースでの「おもしろ実験会」を実施。音楽チームはミニコンサートを行い、アニメソングやJポップのメドレーなどの得意なナンバーを披露。地域の皆さんを楽しませていました。

12/24

クリスマスイベント「キッズランド」を開催

■ 三保生涯学習交流館（静岡県静岡市）

音楽・ものつくり・科学を体験するクリスマスイベントで、楽器作り、クリスマスリースの作成、化学実験を行いました。当日は、清水キャンパス近隣の中学生までの子ども22人が参加し、3つのグループに分かれ各ブースを体験。音楽チームによる演奏も披露しました。

Design and Create

熊本キャンパス

<メンバーそれぞれがアイデアを出し合い議論して、発想をカタチにする中で、自ら発信する力を養う>

豊かな空間つくりのためのデザインとクリエイトを実践し、付属第二高校の校庭にフォリー（装飾用の建物）を製作。また、この過程を撮影した映像作品をコンペに出品しました。

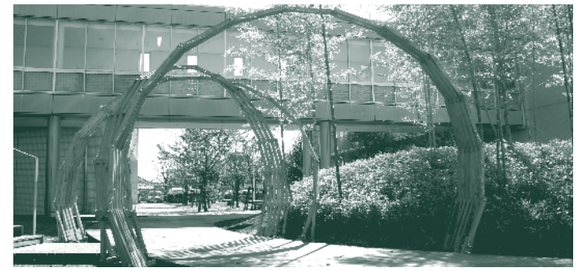
プロジェクトリーダー	角田翔	産業工学部	建築学科	4年	
サブリーダー	柳田健太	産業工学部	建築学科	3年	
	大隈識文	産業工学部	建築学科	3年	
広報リーダー	岩崎矩己	産業工学部	建築学科	3年	
会計責任者	八並滉佑	産業工学部	建築学科	3年	参加人数　33人

10/22～30

「フォリー」を作成

■ 付属第二高等学校

本学付属第二高等学校の生徒と協同して同高校の中庭にフォリーを完成させました。この取り組みは本プロジェクトの企画・立案によるもので、「必要とされるモノつくり」をテーマに作成しました。フォリーのデザインは7月に高校生と合同でコンペを行い、「絆」を題材としたデザインに決定しました。人と人との結びつきを輪として表現しており、輪の大きさは「個性」を象徴しています。
フォリーは10月22日～30日にかけて製作を行いました。設置期間は当初1ヶ月としていましたが、同高校の要望により、現3年生が卒業する2012年3月までの設置となりました。フォリーはオープンキャンパス等でも公開され、多くの皆さまにご覧いただきました。



先端技術コミュニティ ACOT

熊本キャンパス

<センサー制御の確立と地域連携>

プログラミング能力育成、地域・技術連携、高大連携、ロボコン、車いすプロジェクト、農工連携、セキュリティセミナーの7項目を実践。ETロボコンにてチャンピオンシップ出場を目指しました。

プロジェクトリーダー	藤垣昂士	産業工学部	電子知能システム工学科	3年	
サブリーダー	花田和也	産業工学部	電子知能システム工学科	4年	
	板橋大	産業工学部	電子知能システム工学科	2年	
広報リーダー	国枝桂亮	産業工学部	電子知能システム工学科	1年	
会計責任者	林田優作	産業工学部	電子知能システム工学科	2年	参加人数　33人

9/3・4

「ETソフトウェアデザインロボットコンテスト2011 九州地区大会」に出場

■ 九州産業大学(福岡県福岡市)

自律型ライントレース・ロボットの走行競技による性能とそのシステム分析、ソフトウェア設計モデル内容が評価され競われるもので、全国11ヶ所で地区大会が開催されました。九州地区大会には全部で35チームが参加。大会ではコースの材質や光の当たり方などに合わせたプログラミング修正に手間取り、コースの難所をクリアすることができず、順位を落としてしまい、全国大会の出場は叶いませんでした。

12/17

「Green ET Challenge 2011」で優勝

■ 福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター（福岡市博多区）

本競技はETロボコンキットを用いて縦15cmの白色壁に挟まれたコースを走行し、消費電力の少なさを競うもので、福岡・熊本・大分の3県から12チームが参加し、本プロジェクトが見事優勝を飾りました。参加メンバーは「思っていた通りにロボットが走らなかったりするなど、まだまだ勉強不足な点を感じました。予想外のトラブルもありましたが、優勝という結果を出せて良かったです」と感想を述べていました。

阿蘇援農コミュニティープロジェクト

阿蘇キャンパス

<農家の現状を発信するとともに自らのスキルアップを図る>

阿蘇地域での援農ボランティア活動を通して、農家が抱える問題や作業環境、農作業の現状を発信しました。

プロジェクトリーダー	大熊健太	農学部	応用植物科学科	3年
サブリーダー	中津川絢也	農学部	応用植物科学科	3年
	長岡美沙紀	農学部	応用植物科学科	2年
広報リーダー	松田晋太朗	農学部	応用植物科学科	3年
会計責任者	久保田悠	農学部	応用植物科学科	3年

参加人数　41人

8月~9月 2012年 3月~4月　援農活動を夏・春に実施

■ 熊本県南阿蘇村・産山村・阿蘇市・西原村

4年目を迎えた本取り組みは、今回新しく西原村が加わりました。援農には学内からも参加者を募り、炎天下や雨天の中など過酷な環境の中、メンバーは作業に勤しみました。

参加したメンバーは、「援農に参加して以来、一生懸命収穫している農家の皆さんを見て、食材の大切さを見直すようにもなり、お弁当に何気なく入っていたパセリも有り難くいただくようになりました」「農家さん全体が高齢化しており、体力的な問題や後継者不足の問題があると感じました。私たち大学生でさえきつい作業なのに、これを毎日行っていくというのはすごい事です。一週間の援農は大変でしたが、農家さんとの交流で今までないことを経験でき、学べたことは大変良かったです」「夏の援農で訪れた熊本県産山村は自然豊かで景色がとてもよい所です。今年は天気が優れず、毎日の夕立ち、時には雷もあり、作業が中止になったこともありました。自然を相手に安定した食料を供給して下さる農家さんのことをもっと多くの人々に知ってもらえれば幸いです」といった感想を述べていました。

あにまるれすきゅープロジェクト

阿蘇キャンパス

<動物愛護の知識を小中学生に伝えることで教える力を身につける>

不幸な動物を一匹でも多く救うために情報を発信していく。小中学校を訪問して紙芝居や劇で分かりやすく動物愛護の現状を紹介するとともに農家との交流会を行いました。

プロジェクトリーダー	八代梓	農学部	応用動物科学科	3年
サブリーダー	西村未央	農学部	応用動物科学科	3年
	福田汐梨	農学部	応用動物科学科	2年
広報リーダー	園田研人	農学部	応用動物科学科	3年
会計責任者	竹内あづさ	農学部	応用動物科学科	3年

参加人数　31人

11/1~3　募金活動を実施

■ 阿蘇キャンパス

「数鹿流（すがる）祭」にて、東日本大震災で被災した犬や猫を救うための募金活動を行いました。期間中はメイン会場の校舎中庭をメンバーが回り、訪れた地元住民などに協力を呼びかけました。3日には、災害などでペットが飼い主から離れてしまうことに備えて、飼い主の名前や連絡先を書いてペットにつける迷子札の制作コーナーを実施。自宅で犬や猫を飼っている来場者がメンバーのサポートを受けながら制作に取り組んでいました。

なお募金で集まった1万6,483円は、被災地で救援活動を行っているNPO法人「犬猫みなしご救助隊」に寄付しました。メンバーは「多くの方にご協力をいただくことができて大変うれしい。これからもさまざまな機会を利用して、責任を持ってペットを飼うことの大切さを訴えるとともに、震災で被害を受けた動物を救う活動を支援していきたいと思います」と語っていました。

福祉除雪プロジェクト

札幌キャンパス

<プロジェクト活動を通して安全安心な街づくりに貢献し、高齢者や地域の方々とのコミュニケーションを図り社会性を学ぶ>

高齢化社会において、地域貢献として冬の除雪活動を実施。また、雪の降らない季節は高齢者にとって過酷な草刈り作業、畑作業、荷物運びの手助けを行いました。

プロジェクトリーダー	三島龍之介	国際文化学部	地域創造学科	4年
サブリーダー	狩野浩平	国際文化学部	地域創造学科	4年
	嶋田翔太	国際文化学部	地域創造学科	4年
広報リーダー	畑ヶ山真千子	国際文化学部	国際コミュニケーション学科	4年
会計責任者	石川素	国際文化学部	国際コミュニケーション学科	4年

参加人数　97人

6/25　「東海大学公開講座ヒューマンカフェ　北海道・大学生等ボランティアネットワークがとり組む“安心・安全なまちづくり”」に参加

■ 紀伊國屋書店札幌本店

本企画は、本学および北海道・大学生等ボランティアネットワークの主催で行われたもので、その活動を道民に周知させるとともに、ボランティアサークルの活性化を目的として開催されました。会場にはネットワークの構成員、北海道警察、北海道教育委員会を含む105名が集まりました。はじめに北海道警察本部生活安全部 高橋千洋氏が「被災者から学んだ支援の在り方」をテーマに、東日本大震災の被災地を訪れた際の活動について講演。パネルディスカッションでは「社会貢献とボランティアの役割」をテーマとして、NPO北海道ボランティアコーディネーター協会理事長 鳥居一頼氏をに迎え議論が交わされました。参加メンバーは、「ボランティアに関心のある学生や行政関係から多くの参加者があり、ボランティア活動の一層の活性化のために有益だったと考えています」と感想を述べていました。

10/14　「北海道福祉のまちづくり賞」を受賞

この賞は、福祉的配慮に優れた優良事例を広く道民や関係事業者に紹介し、普及啓発を図ることを目的に、公共施設などの整備とともに障がい者や高齢者の自律・社会参加を支援する活動や福祉用具の製作を行っている団体などを表彰しているものです。今年度は、本プロジェクトの除雪支援活動、引っ越しや畑作業の手伝いなどのボランティア活動、北海道警察の依頼を受けて振り込め詐欺に関するチラシの配布、高齢者福祉施設の避難訓練サポートなど、地域に根ざした幅広い取り組みが評価されての受賞となりました。リーダーの三島龍之介さんは、「日々の活動を通して地域や行政の方々と接するなど、私たち学生にとっても貴重な経験を積む場となっています。今後も多くの学生に参加を募りながら、地域の方々のお役に立てるよう活動を続けていきたい」と抱負を語っていました。

12/13　「出陣式」を開催

■ 札幌キャンパス

当日は、地元警察署や自治会関係者、教職員のほか、メンバー90名が参加。はじめにプロジェクトアドバイザーの馬渕悟国際文化学部長と吉村卓也学長補佐があいさつ。また来賓を代表して、札幌方面南警察署の旭岡孝志副署長から「大学生という若い世代の方々が高齢者支援の活動を行っていただいていることを、非常に心強く感じております。健康に十分留意され、心温まる活動を積極的に展開されることを期待しております」と激励をいただきました。その後、リーダーの三島龍之介さんが「プロジェクトでは、安心安全のまちづくりに貢献し、高齢者や地域の方々との交流を通して社会人基礎力の養成に努めています。今後も、ありがとうの言葉をいただけるよう、メンバーとともに頑張って参ります」と決意表明。終了後には早速、学生13名が独り暮らしの高齢者宅など２軒の除雪に出動。学生らは手分けして玄関先に降り積もった雪を手際よくスコップで取り除きました。

チャレンジプロジェクト学科別参加人数

学　部	学　科	人数
国際文化学部	地域創造学科	38
	国際コミュニケーション学科	27
生物理工学部	生物工学科	12
	生体機能科学科	4
情報通信学部	情報メディア学科	15
	組込みソフトウェア工学科	1
	経営システム工学科	11
	通信ネットワーク工学科	10
文学部	文明学科	5
	アジア文明学科	1
	ヨーロッパ文明学科	2
	アメリカ文明学科	14
	北欧学科	7
	歴史学科	11
	日本文学科	4
	文芸創作学科	1
	英語文化コミュニケーション学科	3
	広報メディア学科	10
	社会心理学科	1
	心理・社会学科	19
観光学部	観光学科	10
政治経済学部	政治学科	12
	経済学科	4
	経営学科	5
法学部	法律学科	10
教養学部	人間環境学科	33
	芸術学科	124
	国際学科	50
人間環境学研究科	人間環境学専攻	1
芸術学研究科		6
理学部	数学科	9
	情報数理学科	1
	物理学科	14
	化学科	4
理学研究科	物理学専攻	1
情報理工学部	コンピュータ応用工学科	3
工学部	生命化学科	7

学　部	学　科	人数
工学部	応用化学科	6
	光・画像工学科	1
	原子力工学科	8
	電気電子工学科	18
	材料科学科	7
	建築学科	46
	土木工学科	1
	精密工学科	7
	機械工学科	30
	動力機械工学科	76
	航空宇宙学科	72
工学研究科	航空宇宙学専攻	1
	電気電子システム工学専攻	2
体育学部	体育学科	1
	競技スポーツ学科	1
	生涯スポーツ学科	5
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	41
健康科学部	看護学科	1
	社会福祉学科	1
海洋学部	海洋文明学科	1
	海洋地球科学科	1
	水産学科	7
	海洋生物学科	37
	航海工学科	1
	海洋科学科	6
	環境情報工学科	1
総合経営学部	マネジメント学科	2
産業工学部	環境保全学科	6
	電子知能システム工学科	29
	建築学科	23
産業工学研究科	情報工学専攻	3
	社会開発工学専攻	2
農学部	応用植物科学科	27
	応用動物科学科	36
	バイオサイエンス学科	9
合計		1006

ユニークプロジェクト

■ 湘南キャンパス

障害者自立支援プロジェクト
「秦野精華園」と協働して施設利用者の経済的・社会的自立を目指す。

Green Communications
環境啓発活動や環境保護活動の実践によって興味・関心を伝える。

SEE Project
韓国の中高生と交流・東アジア各国の教科書を比較・分析して研究。

エコ・コンクリートカヌープロジェクト2011
関東学院大学主催の「エコ・コンクリートカヌーコンペ」優勝を目指す。

きらきら実験教室
電子工作キットを用いて子どもたちの理科への興味関心を引き出す。

ヒューマノイド研究チームプロジェクト
競技用2足ロボットを設計・製作し、競技会において入賞する。

Same Same but TOKAI
海外で住宅建築活動や、高校生向けのプレゼンテーションを行う。

リトル・クリエイターズ・プロジェクト(LCP)
東日本大震災の現地調査をし「日本の『今』を伝える」にまとめる。

ハンドランチグライダープロジェクト
昭和記念公園にて開催されるハンドランチグライダー大会に参加。

TOKAI DESIGN PROJECT2011 (TDP2011)
TOKYO DESIGNERS WEEK(2011年度テーマ:「まもる」)へ出展。

DAN DAN DANCEプロジェクト
「DAN DAN DANCE&SPORTS公演」(仮称)を実施する。

ChildワクチンBank
途上国の支援のためにベルマーク、ペットボトルキャップ等を回収。

留学生のためのガイドブック作成プロジェクト
「留学生のためのキャンパスブック」の改訂版を作成する。

■ 札幌

地域連携研究プロジェクト
札幌市南区の企業民間団体と連携して地域活性化イベントを考案。

■ 旭川

アイスパンテオンプロジェクト2012
アイスドーム(世界最大)を建設し、学生企画によるイベントを行う。

■ 清水

ワンダフル・マリンアニマルズ
海洋学部の学生同士で協力し、海洋生物ロボットを作成する。

■ 熊本

肥後のたまもの
産学連携により、地場産の農産物を地元地域や全国にPRする。

チャレンジセンター開講科目

チャレンジセンターは、集い力・挑み力・成し遂げ力を身に付けることによって建学の精神を培うという教育理念のもと、総合大学としての多様性を活かし、学部・学科単独ではできない、社会とのつながりの中での実践的な教育を行っています。

チャレンジセンターが開講する科目には、2つの科目群があります。

(1)目標を見つけ、計画を立て、実行する方法を体験的に学ぶための科目群(「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」「プロジェクト入門」「プロジェクト実践」など)を「社会的実践力副専攻」として開講しており、社会に出てから通用する実践力を身に付けます。

(2)より高度な実践力を身に付けるジャーナリズム実践教育のための科目群(「ジャーナリズム史」「メディア概論」「国際、政治、出版ジャーナリズム」など)を「ジャーナリズム副専攻」、「ジャーナリズム実践教育特定プログラム」として開講しています。公共的な価値に基づいて「情報を選別し、加工し、多くの人々へ提供する作業」を担う人材を育てます。

本年度は、理系教育プログラムの新しいテーマとして、プロジェクト入門Cの1科目を物理学科教員と共同で授業運営しました。また、文部科学省通達「東北地方太平洋沖地震に伴う学生のボランティア活動について」(23文科高第7号、H23年4月1日付)に基づき、教学部とチャレンジセンターが連携して、東日本大震災のボランティア活動への参加から単位認定までを制度化し、運用しました。

社会的実践力副専攻科目を受講して身に付く能力

2011年度開講科目		身につく能力
集い力(入門) (演習A)(演習B)	»	集団で物事に取り組むための コミュニケーション能力
挑み力(入門) (演習A)(演習B)	»	状況を理解して問題を 発見・解決する能力
成し遂げ力(入門) (演習A)(演習B)	»	目標を達成するための マネジメント能力
プロジェクト入門 A・B・C	»	仲間とともに課題に取り組み 実践力を身に付ける
プロジェクト実践 A・B・C・D	»	プロジェクトを実践するための 知識・技術を身に付ける

社会に通用する実践力

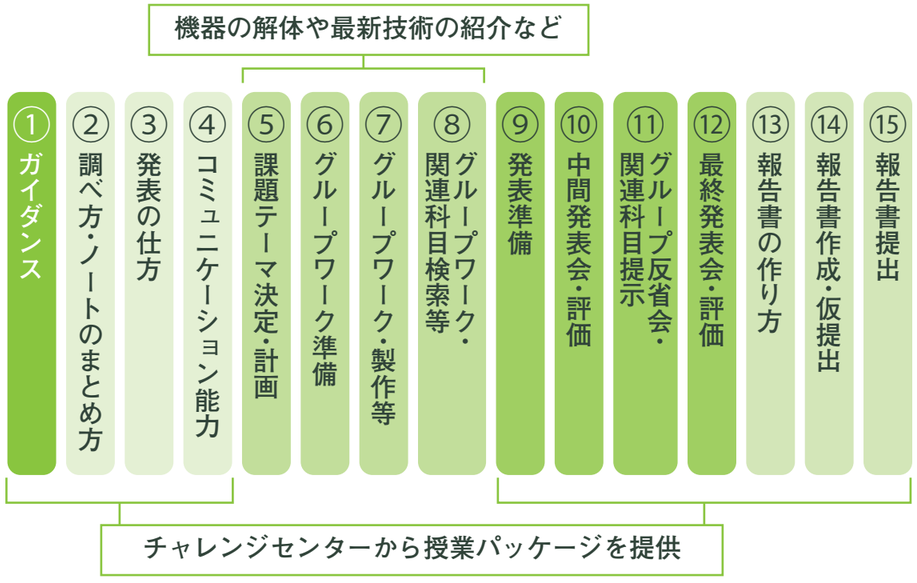
※2010年度カリキュラム改訂によって、科目名称のⅠ・Ⅱ・Ⅲという番号が、(入門)・(演習A)・(演習B)またはA・B・Cに変更となりました。

チャレンジセンター開講科目

自ら学ぶ意欲を引き出す理系教育プロジェクト

2010年度より学生の意欲を引き出すプロジェクト型教育として、理系学部・学科の授業内容及び研究内容に興味を持たせる授業を展開しています。

本年度は、昨年度に引き続き、工学部光・画像工学科 渋谷猛久教授とチャレンジセンター岡田工准教授にて、3Dテレビについて『プロジェクト入門C』を開講しました。また新たに理学部物理学科 櫛田淳子講師と岡田工准教授にて、流星の電波観測をテーマに『プロジェクト入門C』を開講しました。流星は、暗い夜空しか見ることができませんが、電波を利用することで、都内などの明るい空や昼間でも流星の観測が可能となります。特に流星群は昼夜を通じて多くの流星が出現します。授業の第5週よりふたご座流星群とペルセウス座流星群の観測データをもとに流星がどの時間に出現するのかをグループごとに解析しました。また、東海大学の観測データだけでなく、東京大学や国立天文台などの観測データを利用して、流れ星がどの場所からどのように流れたのかを解析しました。グループの発表では、各班で流星に関するテーマを決めて発表を行いました。「今まで流星を見たことは無いが、星に興味に持った」と多くの学生がアンケートに答えていました。



【図1】プロジェクト入門Cの授業計画（15週）

【履修者状況一覧】

授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
集い力Ⅰ ※集い力（入門）	崔 一英・園田 由紀子	8	617
集い力Ⅱ ※集い力（演習A）	崔 一英・田中 彰吾	3	128
集い力Ⅲ ※集い力（演習B）	崔 一英・岡田 工・園田 由紀子	8	95
挑み力Ⅰ ※挑み力（入門）	園田 由紀子	4	329
挑み力Ⅱ ※挑み力（演習A）	園田 由紀子・堀本 麻由子	3	89
挑み力Ⅲ ※挑み力（演習B）	大熊 亨・岡田 工・園田 由紀子	4	60
成し遂げ力Ⅰ ※成し遂げ力（入門）	堀本 麻由子	3	294
成し遂げ力Ⅱ ※成し遂げ力（演習A）	堀本 麻由子	2	62
成し遂げ力Ⅲ ※成し遂げ力（演習B）	広川 美津雄・園田 由紀子　他	3	120
プロジェクト入門Ⅰ ※プロジェクト入門A	岡田 工・園田 由紀子・ 倉田 和夫・平木 隆之　他	11	297
プロジェクト入門Ⅱ ※プロジェクト入門B	崔 一英・岩田 祐子・石川智士　他	11	168
※プロジェクト入門C	岡田 工　他	2	40
※プロジェクト実践A	木村 英樹	1	4
※プロジェクト実践B	木村 英樹	2	5
※プロジェクト実践D	岡田 工	1	7
合　計		66	2315

〈ジャーナリズム実践教育コース〉

授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
ジャーナリズム入門Ⅰ ※時事問題研究A	山口 勉・岩田 伊津樹	2	95
※時事問題研究B	岩田 伊津樹	1	7
ジャーナリズム入門Ⅱ ※論文作法A	山口 勉・岩田 伊津樹	2	44
※論文作法B	山口 勉	1	6
ジャーナリズム演習Ⅰ ※ジャーナリズム演習A	岩田 伊津樹	2	25
ジャーナリズム演習Ⅱ	山口 勉	1	6
時事英語演習Ⅰ ※時事英語演習A	山口 勉 ディーン エリック スティーブン	2	68
時事英語演習Ⅱ ※時事英語演習B	山口 勉	1	12
国際ジャーナリズムⅠ ※国際ジャーナリズムA	山口 勉	1	206
国際ジャーナリズムⅡ ※国際ジャーナリズムB	山口 勉	1	141
ジャーナリズム・ゼミナール	山口 勉・岩田 伊津樹	4	18
※ジャーナリズム史	飯塚 浩一	1	118
※メディア概論	水島 久光	1	99
フォト・ジャーナリズム ※報道写真演習	平 博之	1	36
マスコミ法制 ※マスコミ倫理	岩田 伊津樹	1	157
ウェブ・ジャーナリズム	岡本 勉　他	1	117
経済ジャーナリズム	丸山 康之	1	242
政治ジャーナリズム	鬼頭 誠　他	1	122
出版ジャーナリズム	間宮 淳	1	69
環境ジャーナリズム	岩田 伊津樹	2	185
スポーツ・ジャーナリズム	結城 和香子　他	1	177
科学ジャーナリズム	笹沢 教一　他	1	85
医療・福祉ジャーナリズム	田中 秀一　他	1	35
※文化ジャーナリズム	長井 好弘　他	1	141
合　計		32	2211

※は2010年度以降入学者対象の科目

東日本大震災ボランティア活動単位認定

チャレンジセンターでは、学生たちの震災復興ボランティア活動に対して単位の認定を行いました。所定の書類を提出し、下記要件を満足した学生にチャレンジセンター教授会の議を経て、認定単位を付与しました。

事前提出書類：
東日本大震災ボランティア活動届出および単位認定申請書

事後提出書類：
活動報告書、活動日誌、活動写真（数枚）、協働者サイン（1名）

活動の実働時間：
合計30時間以上

活動内容：
被災地復興、避難者の支援に関わる活動等（募金活動は含めず）プロジェクト実践A・B・C・Dの中から、1セメスター当たり2単位（最大4セメスター、8単位まで）を限度に付与。今年度は、39名に単位が認定されました。

チャレンジセンターでは、「災害ボランティアに関する心得」を配布し、ボランティアに参加する学生に活動上の注意を促しました。また、プロジェクト入門A（園田由紀子講師担当）では、「社会に貢献できるボランティアの担い手になろう」というテーマで、今回の震災と求められるボランティアについて考察する授業が行われました。

2010年度学部等研究教育補助金の報告

2010年度は、本センターにおいて1件の研究計画が学部等研究教育補助金の対象になりました。

計画名：
複数教員の担当するプロジェクト入門における評価方法と評価システムの開発について

計画代表教員：岡田 工

「自ら学ぶ意欲を引き出す理系教育プログラム」として、工学部光・画像工学科教員と共同でプロジェクト入門を行いました。このプロジェクト入門は、応用技術を調べ、基礎技術や基礎理論の大切さに気づき、学びを深めていく授業であります。3Dテレビをテーマとし、補助金にて購入した3Dテレビやビデオプロジェクターを実際に見ることにより、学生の学ぶ意欲を引き出すことが可能になりました。授業の評価には、総合情報センターの授業支援システムを利用しました。グループ発表の評価では、アンケート機能を利用し、学生たちの相互評価を行いました。評価結果は、発表終了後、瞬時に集計され学生にフィードバックされます。これによって、発表の点検を迅速に、客観的にできるようになりました。

計画の成果は、東海大学教育研究所研究資料集, No18, PP 27-32、2011年1月に掲載されました。

社会的実践力副専攻

チャレンジセンターは集い力・挑み力・成し遂げ力を身につけることによって建学の精神を培うという教育理念のもと、総合大学としての多様性を活かし、学部・学科単独ではできない実践的な教育を行なってきました。2010年度のカリキュラム改訂により、科目の目的・体系化を行い、また、社会的実践力副専攻をスタートさせたことにより、より低年次からの履修者が増加しました。

崔 一英 教授
岡田 工 准教授
尾崎 由佳 講師
園田 由紀子 講師
堀本 麻由子 講師

集い力

■ 科目概要

集い力では、友達ではなく仲間を作る力として、人間が集って何かを行うために必要な基礎知識を理解・習得し、習得した知識を自己理解・他者理解のために応用する力を身に付けることを目標としています。さらに、ディスカッションなどを通して自分の意見を表明したり、他人の意見に耳を傾けるコミュニケーション能力を向上させ、「多様で広範な人々をいかに束ねるか」という能力を身に付けることを目指します。授業の中では多くのグループワーク、ディスカッションを行い、実践的能力の育成を行います。

■ 到達目標

【コミュニケーション】コミュニケーションを正しく理解し、言語・非言語的なメッセージの理解・活用ができる。
【関係開始・関係維持】初対面でもスムーズに関係開始ができ、集団内の役割に沿って維持できる。
【協調・合意形成】適切な自己主張、傾聴を踏まえ、妥協ではなく「合意」するまで話し合うことができる。
【ファシリテーター】グループの状況にあわせ、ファシリテーターとして的確に行動できる。
【集い力理解】集い力の正しい理解、自己の成長、残された課題、能力向上の方法を具体的に説明できる。

■ 成果

この授業を通して最も成長したことを尋ねたところ、日頃無意識になりがちな表情やジェスチャーなどの非言語コミュニケーションの重要性について、学生の多くが実感し、「グループワークなどでも(非言語を)意識して取り組めた」「ボディランゲージをもっと勉強したい」などの感想がありました。さらに日本人のコミュニケーションの特徴で取り上げた敬語やマナーについては、「敬語やマナーが(人間関係において)とても重要だということがよく分かった」、「敬語や礼儀はできると思っていたが実際に演習でやってみたら全くできていないことに気づき、勉強する意欲が湧いた」など新たな発見と学習意欲の高まりが見られました。

■ 今後の課題

履修学生のコミュニケーションに関する能力や知識の差が大きく、特に対人スキルが低い学生への工夫が必要になっています。表情から感情を読み取ることが非常に苦手な学生、緊張のあまり興奮して、場違いな行動をとってしまう学生、友だちと違うグループになってしまった途端欠席してしまう学生など様々な特性や能力の学生が履修を希望しています。しかし、問題を抱える学生からの期待が大きいのも事実です。今後はこのような学生を支援するため、専用プリントの作成や演習における工夫など、新たな取り組みを検討する必要があります。

挑み力

■ 科目概要

目標に挑戦する為にはどのような準備が必要なのか、計画を遂行するには何が必要なのかを認知、思考、評価のレベルから考え、目標を達成する過程で出会う無数の壁を、気合や勇気ではなく、客観的に、論理的に解決策を考えるための基礎的知識を習得することを目標とします。演習では途中で諦めることなく「難しい課題にいかに立ち向かう」思考力、集中力、継続力の定着と成功体験を通して、新たな挑戦への動機づけを促します。

■ 到達目標

【問題発見・客観的、多角的視点】様々な事象に対し、客観的、多角的な視点から問題を見つけられる。
【発想力・構想力】複数の発想をもとに、それらを高め、構想としてまとめ計画につなげられる。
【論理的思考力】物事の根拠を分析的に理解し、誰にでも分かりやすく筋道を立てて説明できる。
【モチベーション・集中力】動機付けの種類や特徴を理解し、自らのモチベーションや集中力をコントロールできる。
【挑み力理解】挑み力に含まれる様々な要素を正しく理解し、自らの成長、課題を具体的に説明できる。

■ 成果

学生からのコメントによると、「客観的にみるということがどういうことなのか分かった」「メタ認知など自分の能力を自分でコントロールする力があることを初めて知って、実力を出し切れるような人になりたいと思った」「最初は諦めていたような問題にも、取り組めるようになった」などの感想が見られました。また、「グループで解決策を継続的に話し合う中で、ほかの人の意見を参考に、自分の意見を伝えられるようになった」など、集団での問題解決の能力の成長も見られました。

■ 今後の課題

思考力を高めるために行なっている様々な問題や課題について、授業や演習ではできたのに、テストでは出来かったという学生の声を多く聞きます。これは、日常的な学習態度に問題があり、知識や能力の定着が不完全である可能性が考えられます。思考力を高めるには継続的なトレーニングが必要であり、これらを促すためのテキスト、問題などの教材開発や学習ガイドブック、自習用学習ノートなどなどの作成について検討し復習を促す取り組みを進めていきたいと思います。

成し遂げ力

■ 科目概要

この授業では、プロジェクトの工程を管理し、危機に備え、人々を束ね動かすために必要な基礎的知識を習得し、人々を束ね動かすために必要なモチベーション管理やタイムマネジメント、リスクマネジメントなど創造的なマネジメント力を養い、困難を乗り越えて目標を実現できるリーダーシップを身につけることを目標とします。具体的に示されたテーマについて、グループワークの中で、マネジメント、リーダーシップについて実践的に学びます。

■ 到達目標

【評価と分析のスキル】自らの現状について客観的に分析し、強みと弱みを説明できる。
【工程管理のスキル】分析に基づいて目標を設定し、それを達成する計画を立てられる。
【実行と継続のスキル】計画を実行し、意欲を高く保ちながら努力を続け、困難を乗り越えられる。
【リーダーシップ】リーダーシップ観を振り返り、どんなリーダーシップが必要なのか考え、実践ができる
【成し遂げ力理解】チーム演習や授業で学んだことをもとに、チーム活動を成果の高いものにすることができ、その過程を説明できる。

■ 成果

プロジェクトに参加している学生も多く履修し、リーダーシップについて学んでいます。学生からのふりかえりでは、「自分のリーダーシップで足りない部分が見えてきた」、「授業を通してマネジメントとは何かがわかった」など、自己発見、理解が進み、演習を通して、「リーダーシップを発揮できたことで自信がついた」「授業の中で学んだことをプロジェクトで試してみたい」と、学びがやる気につながった学生も見られました。

■ 今後の課題

学生の学びを相互理解するため、発表の機会を多く設けています。その際、模造紙を使った発表やiPadを使ったプレゼンテーションなど様々な方法を用いてきました。模造紙を使った発表では、文字だけでは伝わりにくい表現ができるというメリットがある反面、発表に使った模造紙の管理や大きい教室では、見えにくいなどのデメリットもありました。しっかりしたリサーチにもとづいた発表を流すため、iPadを使った検索、プレゼンを実施しましたが、効果的な活用までには至らず、今後は、効果的な発表に向けたマニュアル作成などが必要かと思います。

チャレンジセンター開講科目

集い力

■ 集い力入門授業計画(担当教員によって異なります)

期末テスト
まとめ
自己開示トレーニング
個人演習
シミュレーション学習
グループ発表
チームビルディング
グループ演習
【コミュニケーション体験学習】
敬語、礼儀、習慣とコミュニケーション
日本人のコミュニケーションの特徴
【文化とコミュニケーション】
言語メッセージについて
非言語メッセージについて
感覚とコミュニケーションについて
コミュニケーション理解
【コミュニケーションの構造理解】
ガイダンス

【実施例】
この授業では、コミュニケーションを科学的に検証したビデオ教材等を用い、コミュニケーションが非常に複雑で多様なものであることを理解します。さらに、言語などの記号が文化に影響されていることを踏まえ、日本文化に見られるコミュニケーションパターン(敬語や儀礼)の重要性を学びます。グループ演習では、初対面の人とふさわしい態度で関係を作れるかを体験的に学ぶ内容になっています。

挑み力

■ 挑み力入門授業計画(担当教員によって異なります)

期末テスト
まとめ
論理的思考力を高める…論理クイズを使ったトレーニング
論理的説明力を高める
…外発的、内発的動機づけ、正しいやる気の作り方
集中力とモチベーション
論理的思考力の基礎
【挑み力演習:論理的思考力・説明力・集中力】
問題発見・発想転換演習(3)…ゲーム相互評価
問題発見・発想転換演習(2)…オリジナルゲーム作成演習
問題発見・発想転換演習(1)…ゲーム分析
【挑み力演習・発想力・分析力】
発想力を高める方法
わかったつもりを避ける認知　メタ認知力
記憶力を高める方法
多角的視点の獲得
無関心から好奇心へ
【挑み力基礎:多角的視点・メタ認知力・記憶力】
ガイダンス

【実施例】
挑み力では、知的好奇心の喚起から記憶や思考の拡大、さらに、知識や能力を活用するためのメタ認知力など様々な視点で能力を高める学習を行っています。与えられた材料を使ってゲームを考案し、マニュアルを作成する演習では発想力、論理的思考力、問題と答えを入れ替えたプリントを使い、他者にわかりやすく解説する演習では客観的視点や理解力というように様々な演習を使って、スキルトレーニングを行なっています。

成し遂げ力

■ 成し遂げ力入門授業計画(担当教員によって異なります)

期末テスト
まとめ(人的資源を活用する)
成し遂げ力とは何か:ワールドカフェで考えてみよう③
成し遂げ力とは何か:ワールドカフェで考えてみよう②
成し遂げ力とは何か:ワールドカフェで考えてみよう①
成し遂げ力について考える:ゲストスピーカーから学ぶ
将来について展望する
【演習】信念について②
明るい未来をイメージする
【マネジメント基礎】
【演習】信念について①
自分を変える
他者の目から自分を見る
自分を知る
セルフマネジメントとは
【セルフマネジメント基礎】
ガイダンス

【実施例】
成し遂げ力では、基礎的な概念、方法を学ぶだけでなく、実践力を身につけるため、実際に企業などでマネジメントを行なっている方々の話を聞く機会を設け、自らのリーダーシップを振り返り、課題を見つけていくことを行います。学生同士のグループ討議を活性化するため、今年度はワールドカフェを導入しました。学生からは、多くの人の意見を聞くことができ成長につながるという感想が多く見られました。

「ジャーナリズム副専攻」
「ジャーナリズム実践教育特定プログラム」

山口 勉 教授

総論

1、2年生が新たなカリキュラムの特定プログラム、3年生以上が旧コースという移行期の中での1年間でした。セメスターの初めに特定プログラム実施に伴う学生の選抜を行い、多くの授業で新旧カリキュラムの学生が同居することになりました。
2011年度の春セメスターは大震災直後の不安定な社会状況の下で始まりました。学生の興味が強いうちにと、授業でも震災や原発事故に関連する問題を多く取り上げ、本学の原子力工学科主任の大江俊昭教授にゲスト講師を依頼するなどしました。学生を連れての8月と2月の被災地見学旅行、ソーラー発電の見学会などを実施しました。またゼミの恒例となった裁判見学(横浜地裁・横浜地検)など努めて学生を事件・取材の現場に立たせる試みも続けました。
春秋の年2回の恒例となった月刊誌『中央公論』特集ページでの学生の取材原稿でも、震災・原発事故関連の原稿が多く掲載され、チャレンジセンターが宮城県石巻市と岩手県大船渡市の被災地での「どんぐりハウス」建設やその利用についての原稿や、東北出身の学生による身近な被災の実態をアピールする原稿が掲載され、反響をよびました。

国際ジャーナリズム

春206人、秋142人と受講生が多数にのぼりました。春は「アメリカ」をテーマに①超大国、②民主主義、③日米関係について講じました。①ではソ連消滅後の世界帝国としてのアメリカの位相を中心に、震災による原発事故を受けた核兵器及び核管理、核の平和利用の問題に焦点を当てました。②では「アラブの春」など民主主義の拡散、国内での公民権闘争を論じました。③では日米安保体制の理解と中国の膨張による東アジア情勢の変化を取り上げました。
秋は中国、中東報道の基礎について講じました。また毎回「オキュパイ・ウォールストリート運動」やユーロ危機などその週の話題について解説する時間を設けました。中国については、明治以降の衝突コースと冷戦時代、冷戦後のそれぞれの日中関係について基本的認識を深めることに力を入れました。また3〜4回の課題では、優秀作や問題作を授業で紹介し、多人数授業の中で学生個々との接触、対話に努めました。

ジャーナリズム演習

3年生以上の旧カリキュラムでは「演習Ⅰ、Ⅱ」、2年生以下の特定プログラムでは「論文作法」の授業名で、実際には同様の授業、すなわち取材と原稿を書く基礎を教え、実際にテーマを選んで習作を書くことを指導しました。授業では、受講者の相互インタビューによる紹介記事の作成に始まり、キャリアセンター職員や原子力工学科教員を囲んでの模擬記者会見と記事の作成などできる限り原稿を書く練習をしました。
受講者は5〜10人で秋セメスターの「論文作法」の場合、6人の受講生は「自治体による動物の死骸処理の問題」、「足柄茶の放射能汚染」「大震災での東海大の対応」「プロバスケットリーグの統合問題」などそれぞれがテーマを選んでインタビューを行いました。取材先のアポ取りもそれぞれ受講生が行いましたが、時間の許す限りインタビューに同行し、質問の仕方などの直接指導も実施しました。

時事英語演習

春の受講者13人、秋10人の少人数授業。春は報道英語の基礎を教え、毎回英字新聞の最新ニュースから出題、日本語への正確な翻訳を行わせました。毎回の課題は次回にリーディングと解説を行いました。また必須単語、成句を指定し、学期中3回の単語テストを行いました。出題は主にストレート・ニュースからとし、時にオバマ大統領演説も取り上げました。
秋は英語の難度を上げ、タイム、エコノミスト、ニューヨーカーなどからも出題しました。また恒例の3回の単語テストに加え、かなり長文の和文英訳の宿題を3回出題しました。受講生は課題の多さにため息をつきながらほぼ全員が課題・宿題を提出しました。受講生の特色は学部学科の多様さで、パイロットコース、理学部、工学部、中国や韓国人留学生も混じり、春秋通した受講者も5人ほどいました。授業を通して、英語を厳密に読み理解する力を養い、英語だけではなく国際ニュースそのものへの理解を深めることを目指しました。

チャレンジセンター開講科目

環境ジャーナリズム

岩田 伊津樹 教授

ジャーナリズムには様々な分野がありますが、その中でも環境報道は、対象がきわめて広く対立構造になっているのが特徴です。実際の取材でも、ただ環境省を取材していれば完結するものではなく、温暖化などの条約交渉となれば実際に交渉するのは外交官なので、外務省などの担当者を取材しなければなりませんし、自動車排ガスなら国交省や自動車メーカー、産業公害には医療関係者や被害者らの取材も欠かせなくなります。

もちろん、こうした社会的な広がりを持つ問題を考えるには、これまでの議論の経緯や背景が重要になるし、その基礎知識も必要です。そんな多様な環境問題で共通するのは、活動の持続可能性や世代間衡平、また汚染者負担や予防の原則といった基本的な考え方です。実際の授業では、野生生物や防災の専門家を呼んで現場の状況を聞くなどしながら、取材技術だけでなく基本となる考え方を理解できるようにしました。

時事問題研究B 時事問題研究A（ジャーナリズム入門1）

日々のニュースの基礎知識を学ぶとともに関心を持ってその展開を追うという取材記者の基本習得を目指しました。

毎回、その時々の話題のニュースを取り上げ、その背景や議論の焦点、今後の展開などを学生とともに考えました。小沢一郎代議士強制起訴事件、普天間移設問題と日米同盟、日本農業、非正規雇用と格差社会、地域主権と役人の天下り――などテーマは様々でしたが、実際に目の前で動いている生のニュースを継続的に追っているうちに社会的な好奇心が芽生え、またその理解力、判断力も養われてゆきます。新聞を読む習慣、あるいは日々のニュースを気にしてチェックする習慣が身に付いた受講生も多くいました。

ただ、秋学期は、2年生だけが対象の新カリキュラムへの移行に伴い受講者数が極端に少なく残念でした。今後、人数に応じた授業法を考えたいです。

マスコミ倫理 マスコミ法制

取材、報道といった記者活動を続けていると、時に取材先からのクレームや書かれた側からの訂正要求などが起きます。うっかりミスは論外ですが、深刻な人権問題や訴訟沙汰になりかねない誤報はどうしたら防げるのでしょうか。

そうしたトラブルを避けるには、過去の事例から教訓を学び取るのが早道です。その考え方の王道は、念には念を入れた取材と高い倫理観に基づく報道です。

この科目では、なぜジャーナリズムという仕事は重要なのか、なぜ高い倫理観が求められるのかといった本質論的な問題から記者活動の基本中の基本のルールまでを具体的事例を取り上げながら学生諸君とともに考えることにしています。

ただ、今の学生には簡便な記者マニュアルを教える授業と映るらしく受講生が多いのが悩みのタネです。科目の性格上、双方向で緻密に考える内容にしたいところなので、今後、受講制限などでより充実した内容にしたいです。

ジャーナリズム講師一覧

春セメスター講師

【政治ジャーナリズム】
- 鬼頭誠　読売新聞社調査研究本部主任研究員
- 笹島雅彦　同上
- 尾崎和典　編集局次長
- 渡邉嘉久　世論調査部次長
- 青山彰久　編集委員
- 飯塚恵子　同上

【経済ジャーナリズム】
- 丸山康之　読売新聞社調査研究本部主任研究員

【フォトジャーナリズム】
- 平博之　読売新聞元写真部次長

【出版ジャーナリズム】
- 間宮淳　中央公論新社編集委員

【ウェブジャーナリズム】
- 岡本勉　テレビ新潟監査役
- 松井正　読売新聞社メディア戦略局IT事業部次長
- 西嶋徹　同上
- 吉川潔　同局次長

秋セメスター講師

【文化ジャーナリズム】
- 長井好弘　読売新聞社文化部次長
- 福田淳　同上
- 旗本浩二　同上
- 待田晋也　同上
- 松本良一　同上

【スポーツジャーナリズム】
- 結城和香子　読売新聞社編集委員
- 川島健司　読売新聞社運動部次長
- 塩見要次郎　読売新聞社サッカー推進・五輪事務局長
- 松本浩行　読売新聞社運動部次長
- 三宅宏　同上
- 三木修司　同上
- 大野展誠　同上
- 谷祐一　読売新聞記事審査委員会委員
- 迫田泰敏　元読売新聞社運動部長

【医療福祉ジャーナリズム】
- 田中秀一　読売新聞社社会保障部長
- 田村良彦　読売新聞社医療情報部次長
- 山口博弥　同上
- 安田武晴　同上
- 安部文彦　同上
- 本田麻由美　社会保障部次長
- 猪熊律子　同上

【科学ジャーナリズム】
- 笹沢教一　読売新聞社科学部次長
- 佐藤俊彰　同上

COLUMN

2月のはじめ、早朝東海大に集合した8人の学生を乗せて、石巻の被災地に出発した。2年生3人、3年生2人、4年生3人。秋セメスターを締めくくる現場訪問として企画した。

初日の午後宮城県に到着し亘理の漁港周辺を見学した。一面の雪原は災害の傷を隠していたが、積上げられた瓦礫の山に一同息をのんだ。

2日目南三陸町の災害庁舎前に立った。鉄骨だけ残り有名となった庁舎前には祭壇が作られ花や卒塔婆が手向けられ、ここだけはまだぱっくりと震災の傷が開いている気がした。

女川、石巻の市街地とめぐるうちに、学生が次第にもの静かになっていった。岩手県から特別参加した卒業生を駅でピックアップし、壁新聞で有名になった石巻日日新聞などを訪れた。3日目になると学生たちの表情が生き生きしてくる、その変化がわかった。ジャーナリズム教育はやはり現場が決定的だ。

山口 勉 教授

社会的な関心が薄いといわれる現代の若者たちも、何も考えないで日々を過ごしているわけではない。ただ、毎日起きているニュースについて尋ねると、彼ら彼女らの社会的な知識がきわめて浅いことがわかる。

ニュースを見るといっても断片的なテレビ報道か携帯のネットによる。短文の要約程度の内容だ。そんな知識では、深く考えることはできないし、主権者として政治的に適正な選択ができるわけもない。

その時々の雰囲気やはやりの言葉に乗って雪崩を打ったように揺れ動く選挙結果。これでは民主主義の未来にも暗雲が垂れこめかねない。

学生には、ジャーナリズム実践教育コースの授業を受けて、是非社会人としてニュースリテラシーの向上をめざしてもらいたいものだ。

岩田 伊津樹 教授

第1回FD研究会「湘南・札幌サマーセッション‥その成果と反省」

日時:5月25日(水) 17:00〜18:30　場所:湘南キャンパス　8号館　408教室　司会:崔 一英 教授

湘南・札幌サマーセッション
山口 勉 教授

山口 勉 教授

2009年と2010年の2回、地域創造学科の吉村卓也教授と共同で、札幌校舎において湘南、札幌の学生が統一テーマで取材し記事を作成する「プロジェクト入門」のセッション授業を行った。いわばジャーナリズム実践教育コースの「ジャーナリズム演習」を4日間で行うもので、両年とも初日に取材のやり方や文章の書き方、写真の撮り方を教え、2日目は札幌のマスコミ見学、3日は取材日とし、4日目に記事を作成して講評を行った。

2009年の統一テーマは「観光」。札幌の学生10人、湘南は12人が参加し、全員が違うテーマを選んだ。2日目は読売新聞札幌支社と札幌市役所観光課を見学した。また2010年は「北海道の未来」をテーマに札幌10人、湘南13人が参加、2日目は北海道新聞社を見学した。なお札幌参加者のうち5人、湘南4人が前年も参加したいわばリピーターだった。

成果と反省

自分で統一テーマに沿った取材テーマを決め、電話などで取材先のアポをとり、実際に話を聞きにゆく、その際取材先の話を正確に聞き、メモを取り、さらに読者を納得させる文章力で記事を書いていく。企画から文章の作成まで学生にとっては極めてチャレンジングな4日間になり、両年とも最終日の講評会では優秀作品を発表し、さらに文集を作成した。たった1日の取材日で取材が満足に進まず、さらに講評の時間が足りなくなるなど、時間的なゆとりがなかったのが最大の反省点となった。

質疑応答

Q：チャレンジセンターは教育改革のモデル化を目指している。今回の授業はモデル化の一つとして良いと思うが、このような観点で考えたとき、どのような点をさらに工夫すべきか?
A：札幌の参加者は担当教員のゼミ学生である。湘南は、私の入門系授業で参加を促したし、去年はゼミの学生である。参加者は突然飛び込んでこない。履修者を増やすのは大変である。
昨年はキャンパス間留学で大学より補助金が出たが、突然キャンセルする学生もいて、教学課と問題になった。運営は大変である。
Q：参加した学生の勉学に対するモチベーションは上がったか?
A：取材を通して度胸が付いたと思う。取材して、文章にした達成感は得ているはずである。

第2回FD研究会「学外教育活動における危機管理」〜第42回海外研修航海における事例について〜

日時:6月22日(水) 17:00〜18:00　場所:湘南キャンパス　8号館　408教室　司会:崔 一英 教授

湘南・札幌サマーセッション
岡田 工 准教授

岡田 工 准教授

第42回海外研修航海の副団長として参加。危機管理という観点から説明する。今回20年ぶりの寄港地として2カ所加わった。研修団として、学生97名、団役員14名が参加した。事前研修を三保研修所で2泊3日のスケジュールで行った。

研修団の組織体系に従って、航海中、毎晩、船側スタッフとの打ち合わせ、団役員、学生長、班長会議を行った。制約された環境の中でストレスが溜まると体調不良者が出現したが、日本に向かう方向になると元気が出てきた。医師、団長、副団長と協議し、代々木、伊勢原に衛星電話で連絡し、対応した。

今回メールマガジンを使って、研修航海の情報を保護者向けに配信するサービスをスタートさせた。東日本大震災では、これが非常に役に立った。ニューカレドニアを出港した次の日、3月12日の朝に3.11震災のことを知った。そこで、メールマガジンで保護者に向け事務局へ連絡するように配信。多くの保護者からの連絡が事務局に送られ、その内容を船内の学生食堂に貼り出した。また、メールの届かない保護者に対して事務局が電話で確認を行った。3月14日までにすべての学生の保護者と連絡を取ることができた。日本からの情報はFAXの新聞とラジオ放送、インターネットから入手できたが、必ずしも正確なものでなかった。よって、学生には情報を選定して配信した。

震災後、学生の自発的な会議が行われ、自分たちにできることを話し合った。学生全員で千羽鶴を折り、節水や節電など節約に努め、無事に帰国することを再確認した。

この海外研修航海は、究極のチャレンジセンター科目で集い、挑み、成し遂げ力の全ての要素を盛り込んでいると思う。

質疑応答

Q：「研修のしおり」について再度説明してください。
A：危機管理マニュアルとして、「研修のしおり」がある。過去の研修航海から引き継がれており、安全に対するマニュアルや船上生活の諸注意などが記載されている。例えば、研修航海は観光では無く、授業の一環であること。教員が把握できない状況で、事故が起きないようにするためのマニュアルである。
Q：教職員のストレス発散は?学生は?
A：団役員や学生は、行事やみんなとの会話がストレス発散となった。また、アルコールやたばこがストレス発散となる場合もある。アルコールは、飲む飲まないにかかわらず、団役員間の意見交換としても役立った。後部デッキまたは学生食堂の空気清浄器にて喫煙が可能である。学生と団役員のコミュニケーションの場としても活躍した。ただし、船内では、日本の法律と同じ制限とし、20歳未満の学生には、禁酒、禁煙を促した。学生たちのストレス発散として、話をよく聞いてあげることは必要であろう。
Q：研修後の心のケアはどうしているのか?学生が授業に出られないとか、聞くが。
A：疲れからくるものと違うストレスがある。やる気がなくなることも多い。時間が解決してくれる場合が多い。仕事や授業といった通常の生活を進めていくと平常に戻っていくと考えられる。

第3回FD研究会　キャリア支援センター・チャレンジセンター合同FD研究会「学びにつながるグループワークの方法と効果」

日時:2011年12月7日(水)17:30〜19:10　場所:湘南キャンパス　15号館4階第1会議室　司会:崔 一英 教授

「参加型のグループ学習で体験から学び、モチベーションをアップ」
高橋 美智恵 講師
小倉 克夫 講師

なぜキャリア教育はグループ学習なのか、グループ学習を通じて体験から学ぶことの効果はなにかについて発表した。

1)最初にキャリア教育科目の全体像について
2)履修希望者数と(抽選後の)実際の履修者数について
3)3年生春学期のキャリア形成で実践している内容について
・「グループ学習」として、メンバーを選べない新しい人たち4人のチームで行う
・社会人訪問の課題をとおして見えてくること
不安・緊張→興味・関心→楽しくやりたい、自分もそれを創る→チーム調整・課題の難しさ→仲間協力や衝突→自分の変化、周りの変化→仲間意識→達成感、人への興味など
4)学生の反応(出席票の感想欄や提出課題の文章、講師の印象などから)について
5)まとめと課題

「多人数で行うシミュレーション型グループワークの学び」
園田 由紀子 講師

グループワークは中小人数でなければできないのか、多人数授業でも体験型授業を取り入れられるのか、について事例を発表した。

1)はじめに・・・体験型授業の高まりと大規模授業
2)チャレンジセンター科目の概要と入門系科目
3)多人数で行うグループワークでのポイント
4)実践例報告:「集い力入門」密室トリック解決演習
4-1:ステップ式学習…Step1意見を作る　Step2チームを作る　Step3合意を目指す
4-2:ワークシートの活動:段階的に使えるシート…欠席者対策
4-3:グループ発表を通した学び合い

集い力I(入門)では、異なる立場を理解し、互いの立場を尊重しながら、異なる意見を集約し「合意」を導くことができるコミュニケーションの基礎的なスキルの学習を目的とした。多人数で行う場合、それぞれの役割を細かく設定し、学生自らがその立場を獲得しやすくし、学生のモチベーションを高めるために「事件解決」「真相推理」といった探究心をくすぐるような場面を設定している。新聞など限られた情報から全員に推理させ、全員の意見が異なるように5〜6人のグループを作り、彼らに週刊誌の記者という設定を与える。さらに、一部の学生(おもに、欠席していた学生)に関係者役を演じてもらう。この際、記者グループと関係者グループでは異なるワークシートを用い、記者チームは、チームビルディング、グランドルールの策定などを経て、皆で協力して記事を作成・発表させる。関係者チームは、教員が設定した役柄シートをもとに、その役柄になりきってインタビューを受ける。記者と事件関係者という異なる立場でのコミュニケーションを学び、グループ発表を通し、学び合いが生まれる。与えられた設定の中で学生が主体的に役割を獲得しながら、コミュニケーションを学ぶシミュレーション型グループワークとなっている。

園田 由紀子 講師

質疑応答

Q：大人数のクラスの成績評価を簡便にする方法は?
A：フィードバックのコメント記入(手間)を減らすために「ハンコ」を活用している。「ハンコ」の評価基準(点数)を事前に学生に公開(配布)し、学生が自分の評価点数を把握できるように共有化している。私の担当授業では、ほぼ毎回の授業で課題があり、すべて評価(返却)しているが、毎回やる必要はないかもしれない。学生は、出席を重要視している傾向が強く、課題とその評価は数回でも十分かもしれない。
Q：プロジェクト型授業において、モチベーションが低い学生への対策は?
A：モチベーションが低い学生は、何かやってもらえるのを待っている。言われたことをやっていれば単位がとれるという認識なので、課題はきちんと提出するが、プロジェクト活動には消極的なことが多い。意識を変えるような授業内容(刺激)を与えることで自ら動くことで変わる・楽しくなる…と思わせる仕組みが必要かもしれない。
262の法則があり、常に2割の消極的な学生は存在する。「6」を上に引き上げることで、消極的な2割が刺激を受け、変化することもある。キャリア授業では、この方法で対応している(効果も出てきている)。

高橋 美智恵 講師

小倉 克夫 講師

ミニセミナー

詳細はwebへ ▶ http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/

「2010年度秋学期授業を振り返る」～授業参観の結果を参考に～

日時:5月16日(月)11:35 ～ 12:10　場所:東海大学湘南キャンパス　8号館3階プロジェクト会議室　司会:崔 一英 教授

「集い力Ⅲ(演習B)」

岩田 伊津樹 教授

「集い力Ⅲ(演習B)」について報告。3Dテレビを教室で見ながら、その仕組みを学ぶ内容だった。参考になったのは、授業内容を詰め込まず、先週の復習をしながら進めてゆき、ペースもゆっくりで丁寧であるということ。途中、作業的な時間を入れることで学生たちを飽きさせないことも重要である。そこで、春学期から自分の授業でもグループ化と作業的な時間を導入。議論の前に新聞の記事を読ませることにした。家では学生たちは読んでこないためだ。1人1人だと意見をいわないが、グループで議論後にグループとして発表させると意見を述べることもわかった。

「成し遂げ力演習B／Ⅲ」

堀本 麻由子 講師

「成し遂げ力演習B／Ⅲ」の授業について報告。「時限をもったチームを動かす」をテーマに、時間的な制約の中で作業を行うチーム演習を模擬体験していた。コミュニケーションのいいグループほど時間内にやるべきことができていたが、あまり会話がないグループは、講師の指示を理解しておらず作業が遅れがちだった。また、グループで話し合った後の全体発表と、授業テーマを学生に示し、授業の最後に確認する重要性を感じた。

「電気電子工学基礎実験」

崔 一英 教授

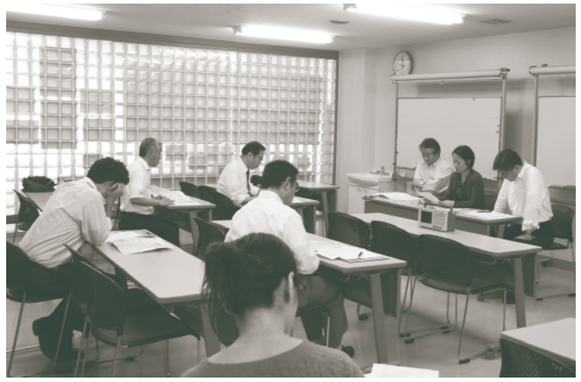
「電気電子工学基礎実験」の授業を報告。テーマ数を半減し、レポート指導に重点をおいていた。コミュニケーションが取れているグループは、実験装置を使用し結果を出す際も間違いがなかった。学生たちは、実験の翌週に教員の指導を受けながらレポートを完成させる。レポートの書き方も身に付くし、考える時間もできる。テーマが少なくなっても学生の教育効果は上がっていると感じた。

質疑応答

Q:何人くらいのグループにしているのか?

A:岩田:環境ジャーナリズムは、6－70人を6－7人の10グループに分けた。時事問題研究は、約30人をその場で5－6人のグループに分けて議論させる。

A:崔:70人くらいを15, 6人に分け1人教員と技術職員がつく。実験は4人グループ。テーマを減らしたが、A評価77%で良い結果だった。



第2回ミニセミナー「本学の災害時の対応について」

日時:6月6日(月)11:30 ～ 12:00　場所:東海大学湘南キャンパス　8号館3階プロジェクト会議室　司会:崔 一英 教授

東日本大震災発生当日の状況と対応

林 敦史(湘南総務課係長)

林 敦史(湘南総務課係長)

発生直後、防災計画書に準じ1号館鉄塔に設置されているスピーカーから、帰宅できる者は帰宅するよう緊急放送したが、これについて保護者から厳しい指摘もあった。午後4時ごろ、小田急運転見合わせで帰宅できない者を耐震工事済みの1号館に避難させた。午後7時ごろ、学食で夕食を約100食提供。その後、宿泊のため14号館に移動させ毛布を配布。講師室に本部を設置。12日午前零時15分、小田急が運転再開したので、帰宅希望者のため駅まで大学バスを2往復運行。その後、ファシリティ課が建物の安全確認をするなど全学で安否確認を実施した。

防災用品の備蓄状況

総合グラウンドと野球場の間に備蓄倉庫がある。平日の学内人員、学生15000～18000人、教職員1200人、関連会社等300人の計約2万人を想定、クッキーなどの非常食セット、ブランケット、水などを3日分備蓄している。

今後の対応

避難経路図を各教室に掲示するが、実際にはマニュアル通りに行かないことも考えられ、臨機応変の対応が必要になる。地震被害だけなのか火災が発生したのかによっても避難路を変える必要がある。

質疑応答

Q:想定と違った場合の指示はあるのか

A:授業中は、総合グラウンドに避難することになるが、結局、その場で判断していただくことになる。

Q:1号館からの緊急放送が届かない所もあるのではないか?

A:今回は発生時、キャンパスの下の方には声が届いていなかった。対応を考えている。

第3回ミニセミナー「2011年度春学期授業を振り返る」～授業参観の結果を参考に～

日時:11月14日(月)12:00 ～ 12:30　場所:東海大学湘南キャンパス　8号館3階プロジェクト会議室　司会:崔 一英 教授

参観対象授業:「集い力I(入門)(第10回)」

教員名:園田 由紀子　日時:2011年6月22日(水)3限

山口 勉 教授

山口 勉 教授

授業では「密室不審死」のシミュレーションに基づき、各自がインタビューリサーチを行っていた。受講者130人という多数にもかかわらず、それぞれが積極的に「関係者役」にインタビューしている姿が印象的だった。参観者自身が担当する「ジャーナリズム演習」授業でも、時折外部から人を招き、インタビュー及びその内容を文章にまとめているが、それに通じる授業として参考になる点があった。

この授業のねらいは、現在の学生に不足している①コミュニケーション能力②関係開始スキル③合意形成④自己開示(自分の意見を言う)――などの養成で、チームに分かれて芝居のようなものをしながら合意形成してゆく。

授業では、きちんとした他者との会話、質問のやり方など「振り返り」を通じて仔細に点検、指導を行っており、その手間のかけ方には頭が下がり、参考になったが、この手法としては、130人という履修者数は多すぎる印象を受けた。

質疑応答

Q:受講者が多いが、何チームで行うのか、1チームの構成人数は?

A:多い時は18チーム、1チーム7～8名で行っている。発表は2回に分けて行う。

参観対象授業:「ジャーナリズム・ゼミナール」

教員名:山口 勉　日時:2011年6月16日(木)5限

岡田 工 准教授

岡田 工 准教授

学内の様々な場所で、学生がジャーナリストとして記事をまとめる。東日本大震災では、福島第一原子力発電所の事故が注目されている。今回は、本学工学部原子力工学科 大江俊昭教授に福島第一発電所の事故による放射線、放射能、その摂取制限値の説明を受けた。

学生は、放射能漏れに関する不安が多かったようだが、放射線量の測定結果から安心したようである。工学部教員の講義は、文系を中心としたジャーナリズムの学生に難しそうであったが、まじめに取材していた。

特に放射能漏れ事故は、健康被害や汚染問題の疑問が多かった。大江先生は事故や放射能漏れの現状を説明され、実際に測定機器を使って放射線測定や、研究室にある資料の解説など、非常にわかりやすい講義だった。

ジャーナリズム・ゼミナールは2回目の参観だが、分野も幅広く、注目度が高い内容であるため学生の関心も高いし、楽しくためになる授業であると感じた。

質疑応答

Q:取材後、学生は報告書を書くのか?放射線の単位について理解できたか?受講者数は何人か?

A:レポートを書き、発表させる。単位については、詳しい説明を受けた。受講者は約20名。現場で現実的な取材をすることが、教育的に望ましい。

第4回ミニセミナー「スペインに太陽エネルギーの巨大発電所を見に行く」

日時:12月12日(月)12:00 ～ 12:30　場所:東海大学湘南キャンパス　8号館3階プロジェクト会議室　司会:崔 一英 教授

岩田 伊津樹 教授

岩田 伊津樹 教授

東日本大震災の余韻さめやらぬ今年5月、スペインで巨大な太陽熱発電所が稼働を始めたというニュースを耳にした。天空に浮かぶ巨大な光の玉。現実離れしたようなその光景にぜひ現物を見てみたいと、スペイン・アンダルシアの現地を訪れた。

ゲマソーラーと呼ばれるこの施設は、高さ140メートルの塔の周囲に縦9メートル、横12メートルの大きな反射鏡2650枚を配置して太陽光を塔の上部に集め、その熱で発電しようというもの。熱伝達物質に沸点の高い溶融塩を使っているため日没後も最大15時間発電可能というのが特徴。約2万5000戸分の電力を供給可能だという。

菅内閣の置き土産である再生可能エネルギー特別措置法も成立し、脱原発を模索する日本でもこうした可能性に挑戦してはどうかと考え、国内の取り組みを調べたところ、何と世界で初めてこの方式の実証実験をしたのは日本だとわかった。30年ほど前に経産省が中心になって進めたサンシャイン計画。その一環として香川県・仁尾町に同様の施設が造られていた。国内では巨大プロジェクトの失敗例として封印された技術がいま海外で花開きつつある。各国に大きく水をあけられたとの印象だが、国内でも新たな実証実験が始まっている。

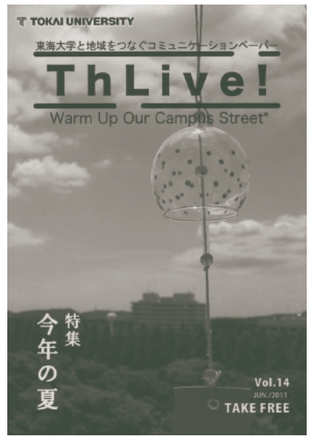
質疑応答

Q:夜間発電の仕組みがよくわからないのですが。

A:蓄熱した溶融塩は560℃を15時間維持でき、これで水を沸騰させ、同じ発電量を可能とする。最近確認したところ、24時間の発電が可能である。

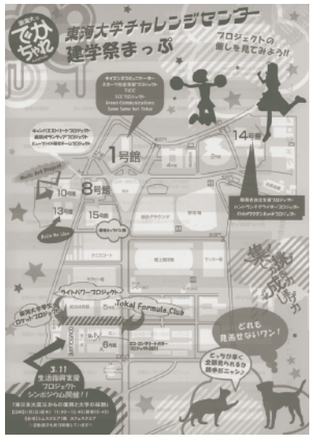
広告媒体物（ポスター・チラシ・パンフレット・フリーペーパー）

3.11生活復興支援プロジェクト



キャンパスストリートプロジェクト

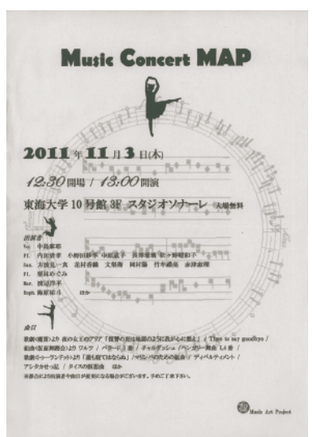
TICC



チャレンジセンター

サイエンスコミュニケーター

チャレンジセンター



Music Art Project

スポーツ社会貢献プロジェクト

チャレンジセンター

ニュースリリース（湘南キャンパス）

月日	内　容
4月14日	障害者自立支援プロジェクト「春の新作パン試行会」を開催
4月25日	3.11生活復興支援プロジェクト発足
5月6日	3.11生活復興支援プロジェクト　岩手県大船渡市に応急公民館「どんぐりハウス」完成
5月24日	障害者自立支援プロジェクト　「春の新作パン2種」を販売開始
6月17日	キャンパスストリートプロジェクト　「音食WEEK」開催
6月24日	3.11生活復興支援プロジェクト　宮城県石巻市に応急公民館「どんぐりハウス」完成
7月5日	病院ボランティアプロジェクト　第7回セミナー「今思いやり、足りてますか？」開催
7月8日	ライトパワープロジェクト　「ソーラーカーについて学ぼう」開催
7月25日	ライトパワープロジェクト　「ものつくり教室」開催
7月29日	病院ボランティアプロジェクト　第8回癒しのイベント開催
8月4日	3.11生活復興支援プロジェクト　「夏休みこどもテレビ局 番組上映会」開催
8月9日	ライトパワープロジェクト　「ソーラーカー記者発表会」開催
9月1日	3.11生活復興支援プロジェクト　「どんぐりハウスに掲示板及び花壇を作製・設置」
9月1日	環境キャラバン隊　「環境教室」開催
9月12日	スポーツ社会貢献プロジェクト　「スポーツフェスタ2011」開催
10月7日	チャレンジセンター　「2011年度プロジェクト中間報告会」開催
10月20日	ライトパワープロジェクト　「ワールド・ソーラー・チャレンジ」優勝報告
10月25日	ライトパワープロジェクト　「ワールド・ソーラー・チャレンジ優勝報告会」開催
10月28日	3.11生活復興支援プロジェクトシンポジウム　「東日本大震災からの復興と大学の役割」開催
11月25日	3.11生活復興支援プロジェクト　宮城県名取市に「どんぐり子ども図書館」建設
12月6日	病院ボランティアプロジェクト　第8回セミナー「死との向き合い方」開催
12月7日	サイエンスコミュニケーター　「第2回 科学喫茶（サイエンスカフェ）」開催
12月9日	キャンパスストリートプロジェクト　「東海大学クリスマスユナイト」開催
12月27日	3.11生活復興支援プロジェクト　宮城県名取市「どんぐり子ども図書館完成式」開催
12月27日	スポーツ社会貢献プロジェクト　「第4回東海スポーツ教室」開催
1月25日	第8回チャレンジセンターセミナー　『人生に信念を持て！－今こそ養え、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」－』開催
1月31日	3.11生活復興支援プロジェクト　宮城県石巻市北上町十三浜相川地区の祭り「春(はる)祈祷(きとう)」の開催を支援
2月15日	DAN DAN DANCEプロジェクト　「DAN DAN DANCE&SPORTS」を開催
未配信	ライトパワープロジェクト 近隣小学校の児童を対象に「2011年度冬季ものつくり教室」を開催

メディアー覧

2011年2月現在

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
3.11生活復興支援プロジェクト	3月28日	Ｗｅｂ	探しあう検索 NAVER（ネイバー）
	3月31日	新聞	日刊木材新聞
	4月 4日	Ｗｅｂ	新建築 .net
	4月18日	Ｗｅｂ	越喜来 Wiki
	4月20日	新聞	岐阜新聞
	4月21日	ＴＶ	岐阜テレビ
	4月21日	新聞	中日新聞
	4月26日	新聞	産経新聞
	4月26日	新聞	日経新聞
	4月26日	Ｗｅｂ	損斐川町ホームページ
	4月26日	Ｗｅｂ	日経新聞 Web 刊
	4月26日	ＴＶ	岩手放送
	4月29日	新聞	日経新聞
	4月29日	新聞	中日新聞
	4月30日	新聞	岩手日報
	5月 2日	新聞	日刊工業新聞
	5月 2日	Ｗｅｂ	日刊工業新聞Ｎｅｗｓウェーブ２１
	5月 2日	新聞	岐阜新聞
	5月 3日	新聞	東海新報
	5月 3日	新聞	日刊木材新聞
	5月 4日	ＴＶ	岩手めんこい TV
	5月 6日	新聞	朝日新聞
	5月 6日	Ｗｅｂ	asahi.com
	5月 7日	Ｗｅｂ	日本建築家協会（JIA）
	5月 8日	新聞	岩手日報
	5月 8日	ＴＶ	岩手めんこい TV
	5月 9日	ＴＶ	テレビ岩手
	5月 9日	ＴＶ	岩手めんこい TV
	5月10日	雑誌	日経アーキテクチャー
	5月10日	Ｗｅｂ	asahi.com
	5月13日	新聞	科学新聞
	5月20日	ＴＶ	テレビ神奈川
	5月21日	新聞	日本農業新聞
	5月31日	新聞	日刊木材新聞
	6月 1日	Ｗｅｂ	FM ヨコハマ
	6月 3日	新聞	読売新聞
	6月10日	新聞	日刊木材新聞
	6月21日	自作媒体	ThLive!
	6月22日	新聞	読売新聞
	6月25日	新聞	河北新報
	6月26日	新聞	中日新聞
	6月26日	新聞	東京新聞

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
3.11生活復興支援プロジ	6月26日	新聞	石巻かほく
	6月28日	新聞	石巻日日新聞
	7月 1日	雑誌	ソトコト
	7月 1日	雑誌	月刊公民館
	7月23日	新聞	岩手日報
	7月31日	新聞	毎日新聞
	8月 1日	雑誌	新建築
	8月 1日	雑誌	新・住宅ジャーナル
	8月 1日	雑誌	Casa BRUTUS
	8月 4日	新聞	盛岡タイムス
	8月 6日	新聞	岩手日報
	8月 9日	新聞	朝日新聞
	8月10日	新聞	朝日新聞
	8月19日	情報誌	広報ひらつか
	9月 4日	ＴＶ	テレビ朝日
	9月18日	ＴＶ	テレビ朝日
	10月17日	新聞	朝日新聞
	12月 1日	雑誌	新建築社
	12月 5日	雑誌	日本経済新聞
	12月15日	ＴＶ	NHK
	12月24日	新聞	神奈川新聞
	1月 6日	新聞	読売新聞
	1月 6日	新聞	毎日新聞
	1月 7日	新聞	毎日新聞
	1月 7日	新聞	河北新報
	1月10日	新聞	読売新聞
	1月13日	新聞	日刊木材新聞
	2月 6日	新聞	河北新報
	2月 5日	新聞	石巻かほく
	2月16日	情報誌	タウンニュース
	3月 8日	情報誌	少年写真新聞社
ライトパワープロジェクト	4月 1日		デイリーサピックス
	5月23日	書籍	光村教育図書
	6月 1日	雑誌	独立行政法人都市再生機構
	6月 2日	ＴＶ	日本テレビ
	6月 3日	書籍	集英社
	6月21日	雑誌	DIME
	7月 1日	情報誌	JETRO（独立行政法人日本貿易振興機構）
	7月 4日	書籍	集英社
	7月11日	書籍	ねえ知ってる？大図鑑
	7月14日	雑誌	蛍雪時代

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
ライトパワープロジェクト	7月16日	新聞	神奈川新聞
	7月16日	新聞	読売新聞
	7月23日	新聞	毎日新聞
	7月27日	新聞	日刊工業新聞
	8月 1日	書籍	オーム社
	8月 7日	ラジオ	福井放送
	8月 8日	新聞	日刊工業新聞
	8月22日	新聞	日刊 CARGO
	8月24日	ＴＶ	TVK
	8月24日	Ｗｅｂ	パナソニック株式会社　他
	8月25日	Ｗｅｂ	asahi.com　他
	8月25日	新聞	THE JAPAN TIMES
	8月25日	新聞	神奈川新聞
	8月25日	新聞	産経新聞
	8月25日	新聞	中日新聞
	8月25日	新聞	朝日新聞
	8月25日	新聞	大阪読売新聞
	8月25日	新聞	中部経済新聞
	8月25日	新聞	電気新聞
	8月25日	新聞	電波新聞
	8月25日	新聞	東京中日スポーツ
	8月25日	新聞	新潟日報
	8月25日	新聞	日本経済新聞
	8月25日	新聞	毎日新聞
	8月25日	新聞	読売新聞
	8月25日	新聞	神奈川新聞
	8月25日	ＴＶ	テレビ東京
	8月26日	新聞	化学工業日報
	8月26日	新聞	繊研新聞
	8月26日	新聞	日本経済新聞
	8月26日	新聞	日刊自動車新聞
	8月26日	新聞	日経産業新聞
	8月28日	ラジオ	NHKラジオ第1「渋マガZ」
	8月29日	Ｗｅｂ	マイコミジャーナル
	8月29日	新聞	日刊工業新聞
	8月30日	雑誌	週刊アスキー
	9月 1日	Ｗｅｂ	NHKラジオ第1「渋マガZ」公式ブログ
	9月 3日	情報誌	タウンニュース
	9月 9日	新聞	科学新聞
	9月10日	雑誌	XaCAR
	9月12日	ＴＶ	TOKYO MX NEWS
	9月17日	新聞	河北新聞
	9月17日	情報誌	タウンニュース
	9月19日	新聞	北羽新報
	9月20日	書籍	プラスチック成型加工学会
	9月24日	ラジオ	広島　RCCラジオ
	9月25日	新聞	神奈川新聞
	10月16日	ＴＶ	NHK
	10月16日	ＴＶ	NHK
	10月16日	ＴＶ	NHK WORLD
	10月16日	ＴＶ	TBS
	10月17日	ＴＶ	NHK
	10月17日	ＴＶ	TBS
	10月17日	ＴＶ	TBS
	10月20日	ＴＶ	NHK
	10月20日	ＴＶ	テレビ東京
	10月20日	ＴＶ	NHK
	10月20日	ＴＶ	TBS
	10月20日	ＴＶ	NHK
	10月20日	ＴＶ	NHK
	10月20日	ＴＶ	NHK WORLD
	10月20日	ＴＶ	TBS　NEWSi
	10月20日	ＴＶ	テレビ東京
	10月20日	Ｗｅｂ	47NEWS
	10月20日	Ｗｅｂ	Car Watch
	10月20日	Ｗｅｂ	SankeiBiz
	10月20日	Ｗｅｂ	家電 Watch
	10月20日	Ｗｅｂ	時事通信
	10月20日	Ｗｅｂ	スポーツ報知
	10月20日	Ｗｅｂ	スポニチ
	10月20日	Ｗｅｂ	日刊スポーツ
	10月20日	Ｗｅｂ	日本経済新聞
	10月20日	Ｗｅｂ	パナソニック株式会社
	10月20日	Ｗｅｂ	毎日 jp
	10月20日	Ｗｅｂ	ロイター
	10月20日	新聞	静岡新聞
	10月20日	新聞	十勝毎日
	10月20日	新聞	日本経済新聞
	10月21日	ＴＶ	TBS　ニュースパード
	10月21日	ＴＶ	NHK
	10月21日	ＴＶ	テレビ東京
	10月21日	ＴＶ	テレビ朝日
	10月21日	Ｗｅｂ	ミツバ
	10月21日	新聞	朝日新聞・毎日新聞・読売新聞　他
	10月22日	新聞	日本経済新聞　他
	10月22日	新聞	世界日報
	10月22日	ＴＶ	NHK
	10月24日	Ｗｅｂ	ジェイテクト

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
ライトパワープロジェクト	10月24日	Ｗｅｂ	パナソニック株式会社
	10月24日	Ｗｅｂ	日野自動車公式 HP
	10月25日	雑誌	サンデー毎日
	10月25日	新聞	日刊工業新聞
	10月25日	ＴＶ	TBS
	10月28日	新聞	科学新聞
	10月29日	ラジオ	FM-FUJI
	10月29日	雑誌	Motor Fan illustrated
	10月31日	ラジオ	FM ヨコハマ
	11月 1日	情報誌	TOYOTA MOTOR CORPORATION AUSTRALIA LIMITED
	11月 1日	新聞	東京中日スポーツ
	11月 1日	新聞	プラスチック産業素材新聞
	11月11日	ラジオ	J-WAVE
	11月12日	情報誌	タウンニュース
	11月18日	ＴＶ	NHK
	11月18日	新聞	科学新聞
	11月20日	雑誌	driver
	11月 20日	雑誌	大学時報
	11月21日	ＴＶ	NHK
	11月28日	情報誌	㈱ソーラーシステム研究所
	11月30日	情報誌	太陽エネルギー
	12月 6日	ＴＶ	NHK
	12月14日	雑誌	蛍雪時代
	12月15日	ＴＶ	テレビ東京
	12月25日	情報誌	パナソニック株式会社
	12月27日	情報誌	㈱ミツバ
	1月 7日	ＴＶ	毎日放送
	1月 8日	ＴＶ	BSTBS
	1月 9日	ＴＶ	TBS
	1月 9日	ＴＶ	BS フジ
	1月10日	情報誌	日本記者クラブ
	1月16日	新聞	岐阜新聞
	1月18日	新聞	The National
	1月19日	Ｗｅｂ	在アラブ首長国連邦日本国大使館
	1月23日	雑誌	㈱プレジデント社
	1月24日	情報誌	公文教育研究会
	1月26日	書籍	PHP 研究所
	1月26日	情報誌	時事通信
	1月30日	雑誌	日経 BP 社
	2月 1日	雑誌	オーム社
	2月 1日	情報誌	日本ミシュランタイヤ株式会社
	3月 2日	ＴＶ	JCN プラスチャンネル
東海大学学生ロケットプロジェクト	2月16日	新聞	朝日新聞
スポーツ社会貢献プロジェクト	9月23日	新聞	神奈川新聞
	9月17日	情報誌	タウンニュース
	9月24日	ラジオ	かわさきFM
	9月20日	Ｗｅｂ	asahi.comTRAVEL
	9月20日	Ｗｅｂ	Yahoo!地域情報
	9月20日	Ｗｅｂ	@nifty旅行
	9月20日	Ｗｅｂ	livedoor地図情報
	9月20日	Ｗｅｂ	exciteシーズン
	9月20日	Ｗｅｂ	OCN大人の趣味生活
	9月20日	Ｗｅｂ	Coca-Cola Family Park
	9月26日	新聞	読売新聞
Beijo Me Liga	10月14日	情報誌	タウンニュース
環境キャラバン隊	2月23日	新聞	静岡新聞
Music Art Project	6月17日	新聞	神静民報
	6月22日	新聞	神奈川新聞
福祉除雪プロジェクト	12月13日	ＴＶ	STV（札幌テレビ放送）
	12月13日	ＴＶ	HTB（北海道テレビ）
	12月13日	ＴＶ	NHK 札幌放送局
	12月13日	ＴＶ	NHK 札幌放送局
	12月14日	ＴＶ	STV(札幌テレビ放送）
	12月14日	新聞	北海道新聞
チャレンジセンター	12月 9日	新聞	日刊工業新聞
	12月20日	情報誌	リクルート
	2月 1日	新聞	神奈川新聞

2011年度活動一覧

4月

月	火	水	木	金	土	日
				1 [湘南]ユニークプロジェクト募集開始	2	3
4	5 [清水]プロジェクト説明会	6	7 [熊本]プロジェクト説明会	8 [高輪]プロジェクト説明会	9	10
			[湘南]学生運営スタッフ募金活動			
11	12 [湘南]チャレンジセンターガイダンス	13 第1回プロジェクト協議会	14 [湘南]プロジェクトメンバー募集説明会	15 [湘南]プロジェクトメンバー募集説明会	16	17
[湘南]学生運営スタッフ募金活動						
		[湘南]ライト:ジャナドリア祭				
18	19 [札幌]プロジェクト説明会	20 [湘南]大船渡市にランドセルを寄贈	21 [阿蘇]プロジェクト説明会	22	23	24 [湘南]BML:イースターイベント
[湘南]チャレンジプロジェクトメンバー募集説明会			[湘南]チャレンジプロジェクトメンバー募集説明会			
[湘南]ライト:ジャナドリア祭						
25	26	27	28	29	30	
				[湘南]復興支援:大船渡応急公民館建設		
[湘南]ライト:ジャナドリア祭						

5月

月	火	水	木	金	土	日
						1
						[湘南]復興支援:大船渡応急公民館建設
2	3	4	5 [湘南]スポ社:こどものつどい	6	7 ユニークプロジェクト募集締切	8 [清水]三保:少年教室
	[湘南]ライト:2010 World Econo Move					
[湘南]復興支援:大船渡応急公民館建設						
9	10	11 第2回プロジェクト協議会	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21 [湘南]科学技術チャレンジフェア	22
				[湘南]復興支援:ロハスデザイン大賞2011新宿御苑展		
23/30	24/31	25	26 [高輪]共育:地域清掃活動	27	28	29

6月

[湘南]TICC:外国人生徒の学習サポート活動

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5 [湘南]TFC:SHCCミーティング
						[湘南]復興支援:ロハスデザイン大賞2011 コト部門大賞受賞
6	7	8	9	10	11	12 [湘南]BML:Festa Junina
13 [湘南]サイエンス:Science News発行	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24 [湘南]復興支援:石巻集会所建設 [湘南]C.A.P.:ThLive!vol.14発行	25 [札幌]福祉除雪:公開講座 「安心・安全な街づくり」	26
27 [高輪]共育:地域清掃活動	28	29 [湘南]MAP:チャリティーコンサート	30			
	[湘南]C.A.P.:TOKAI音食WEEK					

7月

[湘南]TICC:外国人生徒の学習サポート活動

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
				[湘南]C.A.P.:TOKAI音食WEEK	[湘南]TFC:エコパ走行会	
4	5 [湘南]MAP:オペラ「CAMELIA」上映会	6	7	8	9	10
			[清水]三保:清水七夕まつり			
11	12 [湘南]病ボラ:セミナー 「今思いやり、足りてますか?」	13	14 [湘南]TFC: TF2011マシンシェイクダウン	15 [湘南]ライト:エコカー教室	16	17
					[湘南]ライト:いせはら産業フェア	
18	19	20	21	22	23 [湘南]BML:七夕祭 [熊本]ACOT:第1回ETロボコン試走会	24
25	26	27	28	29	30	31 [湘南]ライト:ものつくり教室
				[湘南]BML:茨城キャンプ		

8月

月	火	水	木	金	土	日
1	2 [清水]三保:夏休み体験教室	3 [湘南]サイエンス:エコキッズ探検隊	4	5 [湘南]病ボラ:癒しのイベント 「祭ばやしがきこえる」	6	7 [湘南]サイエンス: 青少年のための科学の祭典2011
					[熊本]ACOT:世界一行きたい科学広場	
[湘南]TFC:富士走行会			[湘南]復興支援:こどもテレビ局 ＴＶ番組作成中!			
[阿蘇]阿蘇援農:夏の援農活動						
8	9	10	11	12	13	14
[湘南]復興支援:こどもテレビ局 ＴＶ番組作成中!						
[阿蘇]阿蘇援農:夏の援農活動					[湘南] サイエンス:星の学校	
15	16	17	18	19 [湘南]TICC:宿題やっつけプロジェクト	20 [熊本]ACOT:第2回ETロボコン試走会	21
[湘南] サイエンス:星の学校					[湘南]ロケット:能代宇宙イベント	
22	23 [湘南]BML:セミ取りイベント	24 [湘南]ライト:WSC参戦記者会見	25	26 [湘南]TICC:宿題やっつけプロジェクト	27	28
[湘南]ロケット:能代宇宙イベント						
[阿蘇]阿蘇援農: 夏の援農活動						
29	30	31				

9月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
					[熊本]ACOT:ETロボコン九州地区大会	
				[湘南] 復興支援:つながる支援		
5	6	7	8	9	10	11 [高輪]共育:神輿担ぎ
			[湘南]キャラバン:夏季キャラバン			
[湘南] TFC:第9回全日本学生フォーミュラ大会						
[阿蘇]阿蘇援農: 夏の援農活動						
12	13	14	15	16 [湘南]キャラバン:夏季キャラバン	17 [湘南]ライト:鳥人間交流会	18
	[湘南]キャラバン:夏季キャラバン				[湘南] ロケット:宇宙開発フォーラム2011	
19 [清水]三保:Active三保	20	21	22	23 [湘南]ライト:横浜カーフリーデー	24	25 [湘南]スポ社: 東海スポーツフェスタ2011
26	27	28	29	30 2012年度チャレンジプロジェクト 応募説明会	31	31

10月

月	火	水	木	金	土	日
					1 [湘南]サイエンス:科学喫茶	2
3 2012年度チャレンジプロジェクト 募集開始	4	5 [湘南]ライト:World Solar Challenge 応援特設サイトOPEN	6	7	8	9
					[湘南]BML:マルチカルチャーキャンプ	
10	11	12	13	14 [札幌]福祉除雪: 北海道福祉のまちづくり賞受賞	15 [湘南]プロジェクト中間報告会 2012年度チャレンジプロジェクト応募締切 [湘南]TICC:PTAバザー	16 [湘南]スポ社:伊勢原すこやかスポーツデー [湘南]ライト: WORLD SOLAR CHALLENGE
[湘南]BML:マルチカルチャーキャンプ						
17	18	19	20	21	22	23 [湘南]キャラバン:あやせ環境展
					[熊本]DC:フォリー制作	
[湘南]ライト:WORLD SOLAR CHALLENGE						
24/31	25	26	27	28	29 [湘南]スポ社:スポーツイベント	30
		[熊本]DC:フォリー制作				
(31日)[湘南]ライト:WSC優勝記者会見		[湘南]ロケット:2011東京国際航空宇宙産業展				

11月

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3 [湘南]復興支援:シンポジウム	4	5	6
	[阿蘇]あにまる:募金活動					
	東海大学建学祭					
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19 [湘南]キャラバン:くすのき祭 [湘南]スポ社:youth age a go-goFestival	20
21	22	23	24	25	26	27 [湘南]TFC:SHCCミーティング
	[湘南]ライト:クルマ未来博2011					
28 [湘南]復興支援:2011年アメリカ建築家協会 デザイン大賞特別賞受賞	29	30				

12月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4 [清水]三保:第43回東海大学バンドフェスティバル
5	6	7	8 [湘南]ライト:日本記者クラブ会見	9	10 [湘南]キャラバン: 地球温暖化防止月間特別企画 [湘南]サイエンス:科学喫茶	11
[湘南]C.A.P.:東海大学クリスマスU-night!						
12	13 [札幌]福祉除雪:出陣式	14	15 [湘南]病ボラ:セミナー 「死との向き合い方」	16	17 [熊本]ACOT:Green ET Challenge 2011 [湘南]病ボラ:Night Of X'mas	18
			[湘南]復興支援・ライト:エコプロダクツ2011			
[湘南]C.A.P.:東海大学クリスマスU-night!						
19	20	21	22 [湘南]MAP: 第2回チャリティーコンサート	23 [高輪]共育:キャンドル教室・ クリスマス演奏会	24 [清水]三保:キッズランド	25
[湘南]C.A.P.:東海大学クリスマスU-night!						
26	27	28	29	30	31	
[湘南]キャラバン:エココン2012						

1月

[札幌]福祉除雪:★除雪活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6 [湘南]復興支援:名取市図書館 どんぐり子ども図書館完成式	7 [湘南]スポ社: 第4回スポーツ教室DAY	8
9	10	11	12 [湘南]TICC: 第3回国際理解シンポジウム 「あなたの外国人のイメージは?」	13	14	15
	[湘南]ライト:International Consumer Electronics Show 2012					
16 [湘南]サイエンス:Scio発行	17	18	19	20	21	22
[湘南]ライト:World Future Energy Summit						
23/30	24/31	25	26	27	28	29

2月

[札幌]福祉除雪:★除雪活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4 [湘南]2011年度プロジェクト最終報告会 [湘南]第8回チャレンジセンターセミナー	5
				[湘南]復興支援:つながる支援		
6	7	8	9	10	11 [湘南]ライト:川崎国際環境技術展2012	12
[湘南]復興支援:つながる支援						
13	14	15	16	17 [札幌福祉除雪:学生国際合宿セミナー2012	18 [湘南]電気自動車・燃料電池車・ ソーラーカー製作講習会 [湘南]ライト:日本太陽エネルギー学会特別賞受賞	19
		[湘南]プロジェクトリーダー研修会		[湘南]ロケット:第10期ハイブリッドロケット打ち上げ実験		
20	21	22	23	24	25	26 [湘南]ライトパワー:ものつくり教室
[湘南]キャラバン:春季キャラバン						
27	28	29				

3月

[札幌]福祉除雪:★除雪活動実施★ [阿蘇]阿蘇援農:★活動実施★

月	火	水	木	金	土	日
			1 [湘南]ライト:次世代自動車技術講演会	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 [湘南]復興支援: 書籍「被災地と共に歩む」発行
	[湘南]ライト:NHK横浜放送局ソーラーカー展示					
12 [湘南]ライト:NHK横浜放送局ソーラーカー展示	13	14	15	16 [湘南]C.A.P:ThLive特別号発行	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28 [湘南]サイエンス:実験教室	29	30	31	

復興支援:3.11生活復興支援プロジェクト
ライト:ライトパワープロジェクト
ロケット:東海大学学生ロケットプロジェクト
TFC: Tokai Formula Club
サイエンス:サイエンスコミュニケーター
スポ社:スポーツ社会貢献プロジェクト
BML: Beijo Me Liga
C.A.P.:キャンパスストリートプロジェクト
病ボラ:病院ボランティアプロジェクト
キャラバン:環境キャラバン隊
MAP: Music Art Project
TICC: Tokai International Communication Club
共育: Takanawa共育プロジェクト
三保:三保活性化プロジェクト
DC: Design and Create
ACOT:先端技術コミュニティACOT
阿蘇援農:阿蘇援農コミュニティープロジェクト
あにまる:あにまるレスキュープロジェクト
福祉除雪:福祉除雪プロジェクト

湘南キャンパス…湘南　札幌キャンパス…札幌　旭川キャンパス…旭川　高輪キャンパス…高輪　清水キャンパス…清水　沼津キャンパス…沼津　熊本キャンパス…熊本　阿蘇キャンパス…阿蘇